

—東京近郊の子どもを持つ母親 400 人に聞く—
食生活の実態と“食”への意識

2010 年 3 月

目次

■調査企画	1
■調査結果の内容	3

I 子どものいる主婦 400 人に聞く食生活の実態

1. 普段食事の支度にかかる時間	4
●『朝食』の支度にかかる時間は、「10～20 分未満」(34.0%)、「30～40 分未満」(32.8%)が多く、平均「22.6 分」	
●『夕食』の支度にかかる時間は、「60～70 分未満」(50.3%)が最も多く、平均「58.6 分」	
2. 家庭で、家族全員が揃って食事をする回数は週何回か	6
●『朝食』は、「2～3回」(27.0%)が多いものの、「ほとんどない」家庭がほぼ3分の1(32.5%)を占め、平均「2.3 回/週」	
●『夕食』は、「2～3回」(43.8%)が最も多く、平均「3.1 回/週」	
3. 家庭で、ふだん家族全員が揃って食事を食べる時の所要時間	9
●『朝食』は、「30～40 分未満」(29.5%)、「10～20 分未満」(26.5%)、「20～30 分未満」(22.8%)が多く、平均「22.4 分」	
●『夕食』は、「60～70 分未満」(36.5%)、「30～40 分未満」(25.3%)が多く、平均「49.0 分」	
4. 『生鮮食品』を選ぶ時、特に気をつけている点	11
半数以上の人々が、「賞味期限・消費期限」(75.0%)、「価格」(62.3%)、「原産地」(61.3%)、「見た目の新鮮さ」(58.3%)などに気をつけている	
5. 『加工食品』を選ぶ時、特に気をつけている点	12
“生鮮食品”同様、「賞味期限・消費期限」(79.5%)がトップ。以下「価格」(50.8%)、「添加物」(43.0%)、「材料の原産地」(36.3%)、「原材料」(35.0%)の順	
6. 料理・食品は、購入することが多いか、自分で作ることが多いか	13
●“作ること”より「購入することが多い」料理・食品は、『ドレッシング』(79.5%)、『だし』(73.0%)、『漬物』(49.5%)が上位を占める	
●『みそ汁』(92.3%)、『きんぴらごぼう』(85.3%)、『おにぎり』(85.0%)など、ほとんどの料理・食品は「作ることが多い」が中心だが、“購入と作ること”が「半々くらい」の割合が高いのは『漬物』(27.0%)、『ぎょうざ』(25.5%)、『とんかつ』(19.3%)、『天ぷら』(19.0%)など	
7. “我が家の味” といえばどんな料理か	15
「餃子」(13.0%)、「肉じゃが」(10.3%)、「野菜の煮物」(8.3%)がベスト3	
8. 家庭で、食材を購入して使い切れなかったり、食べ残したりして、食品を捨てる量	17
6割弱(58.0%)は“少ない”としているが、“多い”という人が1割強(12.8%)	

9. 食品を捨てることについて、どう感じるか 18

「もったいない」(92.8%)をはじめ、「もっと計画的に購入したい」(60.8%)、「作った人に申し訳ない」(40.0%)など、捨てることに“後ろめたさ”を感じている人がほとんど

10. 家族揃って外食する頻度 19

「月に1回くらい」(28.5%)が最も多く、平均は「1.3回/月」

11. 家庭の食費は、一カ月に大体いくらくらいか 20

●家庭の一カ月の食費は、「4～6万円未満」(37.3%)、「6～8万円未満」(26.8%)という家庭がほぼ3分の2(64.0%)を占め、平均は「6万2,260円/月」

●1割(10.5%)の家庭は“野菜など自家生産”している。その“自家生産食品”を市価に換算した一カ月の平均は「1,790円」

Ⅱ 子どものいる主婦 400人に聞く “食”に関する意識

1. 毎日の食生活で特に重視していること 22

「栄養」(78.0%)が第一。そして「おいしさ」(64.8%)、「家族の好み」(55.8%)がトップ3

2. “食”について、関心がある・日頃から知りたいと思う・情報を集めている事柄 24

「献立・レシピ」(84.5%)が断然トップで、献立を考える苦勞がうかがえる。以下「からだに良い食べ物」(62.8%)、「調理の技術・コツ」(58.8%)、「栄養」(52.0%)、「安全性」(48.5%)、「おいしい食品・店」(47.0%)など、さまざまな情報にアンテナを張っている

3. “食”に関する感謝の気持ちを持っているか 25

「とても感謝の気持ちがある」(47.0%)、「まあ感謝の気持ちがある」(49.3%)を合わせると、ほぼ全員が“感謝の気持ちがある” (96.3%)

●感謝の気持ちは、「おいしいものがおいしく食べられることに対して」(74.0%)、「農業・漁業・酪農従事者に対して」(59.7%)、「自然の恩恵に対して」(57.4%)、「食べ物のいのちを食べることに対して」(46.0%)など

4. “食の安全”について、どの程度関心を持っているか 27

「とても関心がある」(33.5%)、あるいは「まあ関心がある」(61.5%)を合わせて、ほぼ全員が“関心がある” (95.0%)

●関心があるのは、「食品添加物」(83.7%)がトップ。以下「輸入食品」(73.4%)、「残留農薬」(57.9%)、「食品偽装」(57.1%)、「遺伝子組換え食品」(48.2%)の順

5. “安全な食”のための対応や、生活習慣として、実行していること 29

「原産地を確認する」(79.3%)がトップ。以下「なるべく手作りする」(68.5%)、「食品の表示をよく読む」(65.5%)、「気になる添加物を使っている食品は利用しない」(46.8%)、「地元でとれた野菜・果物やその加工品を利用する」(32.5%)の順

6. “出来合いの惣菜”について、どう考えているか 30

「すぐ食べられて便利」(79.8%)が第一。そして「少量欲しい時によい」(46.0%)、「自分では作り難い料理が食べられる」(43.0%)などの利点もあるが、「価格が高い」(49.8%)、「味が濃い」(39.5%)、「カロリーが高い」(28.3%)などの“否定的な”意見も

7. 自分自身や家庭の食生活について望んでいること、実現していること 32

- 4人に3人以上が、「料理のレパートリーが多い」(85.0%)、「なるべく手作りする」(82.3%)、「料理が上手」(78.8%)、「安全な食品を利用する」(74.5%)を“望んでいる”
- 5人に2人以上が、「なるべく手作りする」(76.3%)、「夫や子どもの弁当を作る」(51.5%)、「食事の支度にあまり時間をかけない」(43.3%)、「食事中の会話が多い」(41.0%)などを“実現している”
- 「料理のレパートリーが多い」を“望んでいる”人の“実現している”割合は1割強(13.2%)

Ⅲ 子どものいる主婦 400 人に聞く “食育” に関する意識と実態

1. これまで料理や食についての知識を、主に誰から教わったり、何かからとり入れてきたか 35

やはり、「母親」(86.5%)が一番。第2位は「テレビ番組」(73.8%)

2. 子育てをする中で、食べ物や食事について、言い聞かせたり、守らせようとしたこと... 36

「食べ物を粗末にしない」(84.8%)が最も多く、以下「好き嫌いをしない」(82.5%)、「いただきます、ごちそうさま、と言う」(79.8%)、「食卓に肘をつかない」(69.8%)など、“食の有り難さ”や食事・食卓のマナーをしっかりと教えている母親が多い

3. 子育ての中で食べ物や食事について、参加・実行させるようにしてきたこと 37

半数以上が、「食事後の食器を運ぶ」(79.5%)、「食卓の準備」(65.8%)、「食品の買い物」(58.8%)、「食事の支度」(55.8%)などを子どもに参加・実行させている

- 「食事の支度」の具体的な内容は、「野菜などの皮をむく、切る」(79.4%)、「お米をとぐ」(69.1%)、「料理を作る」(64.6%)、「野菜などを洗う」(61.9%)など
- 第一子が一番はじめに作った料理は、「カレーライス」(20.8%)、「オムレツ・卵焼き」(11.8%)、「サラダ」(9.0%)がトップ3
- 「食事の支度」に第一子に参加させるようになった年齢は、「3歳以下」(19.7%)、「4～6歳」(45.7%)の“小学校入学前までに”が過半数(65.5%)

4. 「おはし」を正しく持っているか 41

「正しく持っている」という人が8割強(82.5%)を占めるが、「正しく持っていない」も2割弱(17.5%)

IV 子どものいる主婦 400 人に聞く “日本の農業” に関する意識と実態

1. 現在、日本の食糧自給率はどれくらいだと思うか 42

4人に1人が正解の「40%」(26.8%)

2. 日本は、どの程度食糧を自給すべきだと思うか 43

「3分の2くらい」が6割弱(58.0%)を占め、「半分くらい」(30.0%)が続く

3. 国産牛を食べても、与えている飼料が外国産の場合は自給率が上がらないことの認知... 44

「知らない」(77.5%)という人が圧倒的に多く、「知っている」人は2割強(22.5%)

4. これからの“農畜水産物”に対する要望 45

何と言っても「安全な」(98.8%)“農畜水産物”が第一。そして「おいしい」(76.8%)、「安い」(52.8%)、「抗生物質を使っていない」(52.3%)、「価格変動の少ない」(50.8%)、「減農薬の」(49.3%)など

5. ここ1年間の“食”に関するニュースで印象に残っていること 46

「賞味期限・消費期限改ざん」(76.5%)、「産地偽装」(66.8%)、「原材料偽装」(59.5%)、「事故米の不正転売」(35.8%)など“食にかかわる不祥事”が上位

調査企画

1. 調査目的

昨今、“食”に関するニュースが世間を騒がせ、“食の安全・安心”への関心が一層高まっています。
この調査は、家庭生活における食生活の実態、および“食”に関する意識を探ることを目的に実施しました。

なお、分析では2003年11月～12月に実施した『世代をつなぐ食、その実態と意識調査』（2004年発表）の結果と比較し、約6年間の変化をみてみます。

2. 調査対象

首都20km～50km圏に居住する、子どもを持つ30歳～59歳の主婦

3. 調査対象の抽出方法

上記調査地域から調査地点を無作為に抽出し、地点内に居住する該当条件の主婦を調査対象とするエリアサンプリング法（20地点）

4. 標本抽出数と有効回収数

- ・抽出数：1地点あたり25名 計500名
- ・有効回収数：400名（有効回収率80.0%）

5. 調査方法

調査票を用いた自記式留置法

6. 調査期間

2010年2月22日～3月10日

7. 標本構成

有効回収400名の標本構成は以下の通りです。（上段：サンプル数、下段、構成比 %）

F1. 年齢（平均：44.5歳）

サンプル数	30～ 34歳	35～ 39歳	40～ 44歳	45～ 49歳	50～ 54歳	55～ 59歳
400	63	70	70	64	67	66
100.0	15.8	17.5	17.5	16.0	16.8	16.5

F2. 職業

サンプル数	常勤	パート・ アルバイト	家業従事	その他 有職	無職
400	19	192	65	1	123
100.0	4.8	48.0	16.3	0.3	30.8

F3. 同居家族人数(自分含む) (平均:3.9人)

サンプル数	2人	3人	4人	5人	6人 以上
400	15	123	177	58	27
100.0	3.8	30.8	44.3	14.5	6.8

F4. 子どもの人数(非同居含む)(平均:2.0人)

サンプル数	1人	2人	3人	4人 以上
400	94	232	70	4
100.0	23.5	58.0	17.5	1.0

F4-1. 子どもの学齢(複数回答)

サンプル数	未就 学児	小学校1～ 3年生	小学校4～ 6年生	中学生	高校生	大学・ 専門学校 など学生	社会人
400	99	95	86	78	74	77	121
100.0	24.8	23.8	21.5	19.5	18.5	19.3	30.3

F4-2. 第一子の性別

サンプル数	男子	女子
400	195	205
100.0	48.8	51.3

F5. 親世帯との同居の有無

サンプル数	している	していない
400	58	342
100.0	14.5	85.5

F6. 住居形態

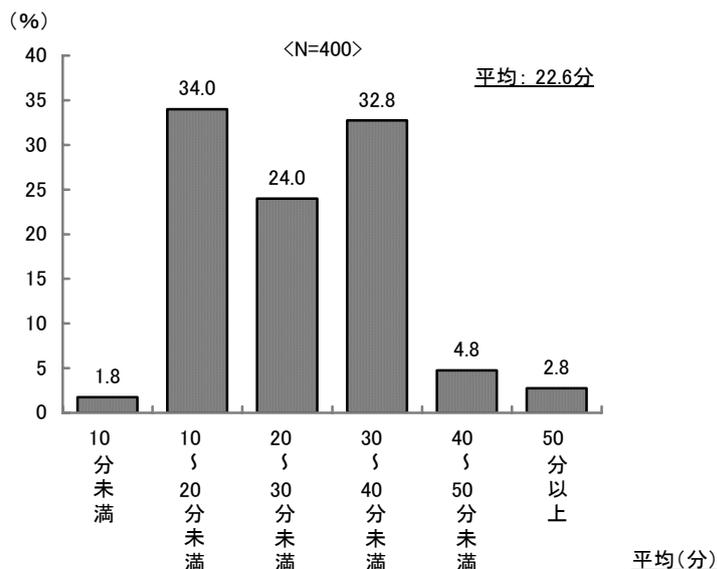
サンプル数	戸建	集合住宅
400	274	126
100.0	68.5	31.5

調査結果の内容

1. 普段食事の支度にかかる時間

●『朝食』の支度にかかる時間は、「10～20 分未満」(34.0%)、「30～40 分未満」(32.8%)が多く、平均「22.6 分」

●『夕食』の支度にかかる時間は、「60～70 分未満」(50.3%)が最も多く、平均「58.6 分」



年 代	平均(分)							
	30代 <n=133>	1.5	41.4	27.8	24.8	3.8	0.8	20.1
40代 <n=134>	1.5	33.6	20.1	37.3	4.5	3.0	23.4	
50代 <n=133>	2.3	27.1	24.1	36.1	6.0	4.5	24.3	
同居 家族 数	2～3人 <n=138>	2.9	36.2	22.5	29.7	4.3	4.3	22.6
	4人 <n=177>	0.6	33.3	29.9	29.9	5.6	0.6	21.9
	5人以上 <n=85>	2.4	31.8	14.1	43.5	3.5	4.7	24.1

図 1. 『朝食』の支度にかかる時間

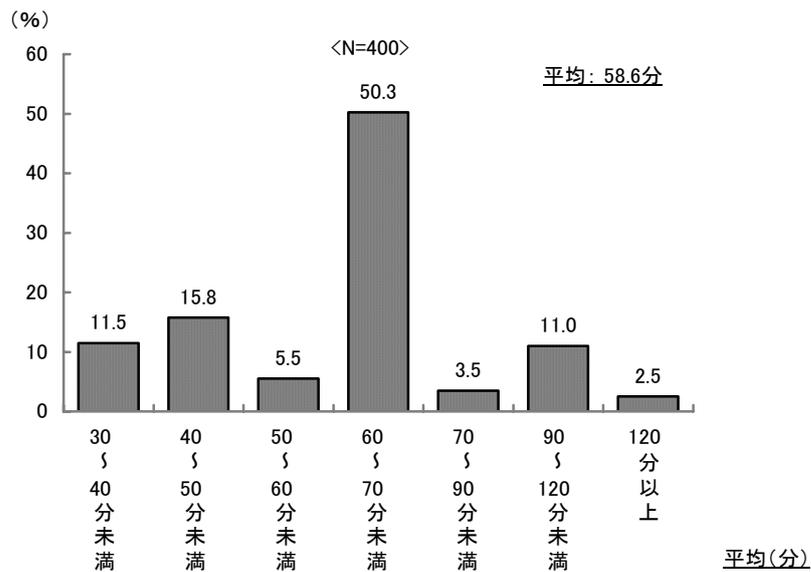
まず、家庭では普段、食事の支度にどのくらい時間をかけているか、『朝食』『夕食』について聞いてみました。

『朝食』の支度にかかる時間をみると、「10～20 分未満」(34.0%)という人が最も多く、以下「30～40 分未満」(32.8%)、「20～30 分未満」(24.0%)が続き、大半(90.8%)は「10 分～40 分未満」の範囲です。平均時間は「22.6 分」です。

年齢別にみると、「30 代」では「10～20 分未満」(41.4%)が最も多くなっていますが、「40 代」「50 代」は「30～40 分未満」(順に 37.3%、36.1%)が最も多くなっています。平均時間も、年齢が上の人ほど長くなっています。

同居家族数別にみると、平均時間は「5人以上」の家庭が「24.1 分」と、「2～3人」(22.6 分)、「4人」(21.9 分)より長めです。

図 2. 『夕食』の支度にかかる時間



年 代	人数	時間区間 (%)							平均(分)
		30分未満	40分未満	50分未満	60分未満	70分未満	90分未満	120分以上	
年 代	30代 <n=133>	12.0	19.5	5.3	50.4	2.3	9.8	0.8	55.9
	40代 <n=134>	9.7	14.9	3.7	53.0	3.7	10.4	4.5	60.8
	50代 <n=133>	12.8	12.8	7.5	47.4	4.5	12.8	2.3	59.0
同居家族数	2~3人 <n=138>	15.2	16.7	6.5	44.9	4.3	10.9	1.4	56.8
	4人 <n=177>	10.2	17.5	6.8	55.4	1.7	6.2	2.3	56.5
	5人以上 <n=85>	8.2	10.6	1.2	48.2	5.9	21.2	4.7	65.7

次に、『夕食』の支度にかかる時間をみると、「60～70分未満」(50.3%)という人が断然多く、そのほかでは「40～50分未満」(15.8%)、「30～40分未満」(11.5%)、「90～120分未満」(11.0%)が1割台が続いています。平均時間は、「58.6分」と約1時間で、『朝食』より36分長くなっています。

年齢別にみると、いずれの年齢層でも「60～70分未満」が5割前後で最も多くなっています。平均時間は、「30代」(55.9分)が『朝食』同様、最も短くなっています。

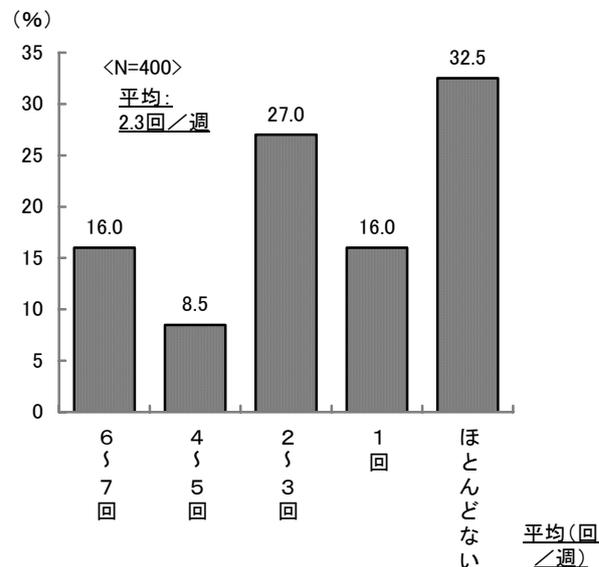
同居家族数別にみると、平均時間は「5人以上」の家庭が「65.7分」と、「2～3人」(56.8分)、「4人」(56.5分)より長めです。

◆前回調査【2003年11月～12月実施】と比較すると、平均時間が『朝食』は「20.7分」→「22.6分」、『夕食』は「56.1分」→「58.6分」と、いずれも長めになっています。

2. 家庭で、家族全員が揃って食事をする回数は週何回か

- 『朝食』は、「2～3回」(27.0%)が多いものの、「ほとんどない」家庭がほぼ3分の1(32.5%)を占め、平均「2.3回／週」
- 『夕食』は、「2～3回」(43.8%)が最も多く、平均「3.1回／週」

図 3. 家庭で、家族全員が揃って『朝食』をとる回数は週何回か



年 代	回数					平均(回/週)	
	6~7回	4~5回	2~3回	1回	ほとんどない		
30代 <n=133>	18.8	10.5	30.1	17.3	23.3	2.6	
40代 <n=134>	17.9	5.2	23.1	17.9	35.8	2.2	
50代 <n=133>	11.3	9.8	27.8	12.8	38.3	2.0	
同居家族数	2~3人 <n=138>	22.5	9.4	23.9	15.2	29.0	2.6
	4人 <n=177>	14.1	9.0	26.0	18.6	32.2	2.2
	5人以上 <n=85>	9.4	5.9	34.1	11.8	38.8	1.8
子供年齢	小学校低学年以下のみ <n=103>	22.3	7.8	27.2	21.4	21.4	2.7
	小学校高学年、中学生がいる <n=136>	19.9	9.6	25.0	14.7	30.9	2.5
	高校生以上のみ <n=159>	8.8	8.2	28.3	13.8	40.9	1.8

では、家庭で家族全員が揃って食事をするのは何回くらいあるのでしょうか。『朝食』『夕食』について聞いてみました。

『朝食』についてみると、「ほとんどない」(32.5%)という家庭がほぼ3分の1を占めていますが、家族全員が揃って『朝食』をとる家庭では「2～3回」(27.0%)が最も多く、以下「1回」、「6～7回」(各16.0%)が続いています。平均回数は「2.3回／週」です。

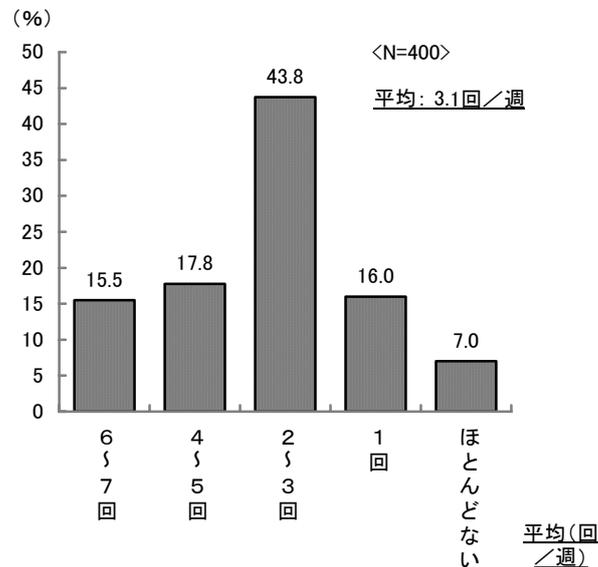
年齢別にみると、年齢が上の人の家庭ほど「ほとんどない」という割合が高く、《50代》では4割弱(38.3%)に達しています。反対に、若い人ほど「6～7回」、すなわち1週間のうちほとんど一緒に食べている割合が高くなっています。平均回数も、若い人ほど多くなっています。

同居家族数別でみると、家族数が多い家庭ほど「ほとんどない」、家族数が少ない家庭ほど「6～7回」の割合が高くなっています。平均回数も、家族数が少ない家庭ほど多くなっています。

また、子どもの学齢別でみると、大きい子どもがいる家庭ほど「ほとんどない」、小さい子どもがいる家庭ほど「6～7回」の割合が高くなっています。

このように、一緒に朝食をとることは、家族数や子どもの年齢が大きく影響しているようです。

図 4. 家庭で、家族全員が揃って『夕食』をとる回数は週何回か



区分	30代 <n=133>	40代 <n=134>	50代 <n=133>	2~3人 <n=138>	4人 <n=177>	5人以上 <n=85>	小学生以下のみ <n=103>	小学生高学年、中学生がいる <n=136>	高校生以上のみ <n=159>	平均(回/週)		
年代	13.5	20.3	48.9	12.8	4.5	3.1	18.7	16.4	40.3	19.4	5.2	3.2
同居家族数	14.3	16.5	42.1	15.8	11.3	2.9	21.0	18.1	37.0	15.9	8.0	3.3
子学 供 の 年齢	10.6	7.1	56.5	17.6	8.2	2.6	16.5	18.4	49.5	12.6	2.9	3.3
	13.6	22.6	42.9	15.3	5.6	3.1	14.7	22.1	40.4	17.6	5.1	3.1
	15.1	13.8	42.8	17.0	11.3	2.8						

次に、『夕食』についてみると、「2～3回」（43.8%）という家庭が断然多く、以下「4～5回」（17.8%）、「1回」（16.0%）、「6～7回」（15.5%）が1割台で続いています。平均回数は「3.1回/週」です。なお、朝食と違って「ほとんどない」（7.0%）家庭は1割に達しません。

年齢別にみても、いずれの年齢層でも「2～3回」が4割台と多くなっていますが、年齢が上の人ほど「ほとんどない」割合が高くなっています。平均回数は、《50代》（2.9回）が他の年齢層に比べて少なめです。

同居家族数別にみても、いずれも「2～3回」が最も多くなっていますが、その割合は家族数が多い家庭ほど高くなっています。一方、家族数が少ない家庭ほど「6～7回」の割合が高くなっています。平均回数は、家族数が少ない家庭ほど多くなっています。

◆前回調査と比較すると、

『朝食』 ----- 「ほとんどない」 31.5%→32.5% 「6～7回」 12.0%→16.0%

平均回数 2.2回→2.3回

『夕食』 ----- 「2～3回」 37.5%→43.8% 「6～7回」 15.8%→15.5%

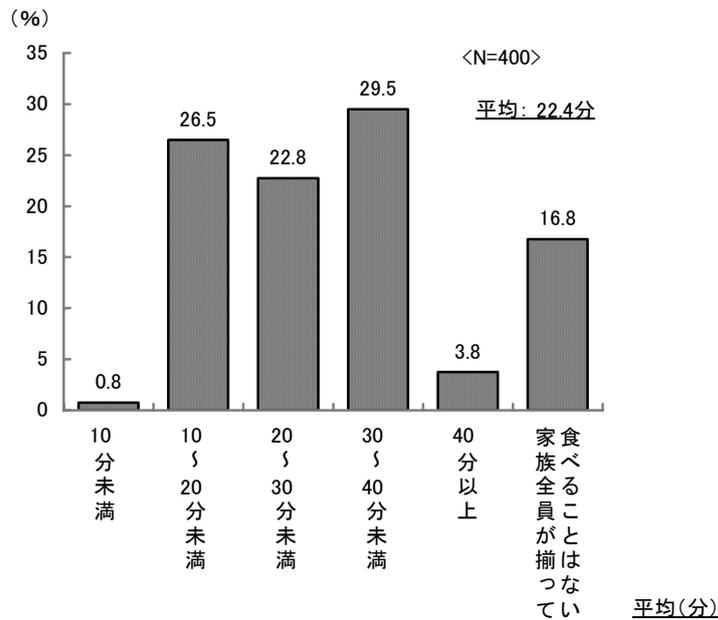
平均回数 3.3回→3.1回

となっており、『朝食』は「6～7回」、すなわち1週間のうちほとんど一緒に食べている割合がやや増加傾向にあり、平均回数も増えています。『夕食』は「6～7回」と「4～5回」を合わせた割合が41.3%→33.3%と8ポイント下げ、平均回数がやや少なくなっています。

3. 家庭で、ふだん家族全員が揃って食事を食べる時の所要時間

- 『朝食』は、「30～40分未満」(29.5%)、「10～20分未満」(26.5%)、「20～30分未満」(22.8%)が多く、平均「22.4分」
- 『夕食』は、「60～70分未満」(36.5%)、「30～40分未満」(25.3%)が多く、平均「49.0分」

図 5. 家庭で、ふだん家族全員が揃って『朝食』を食べる時の所要時間



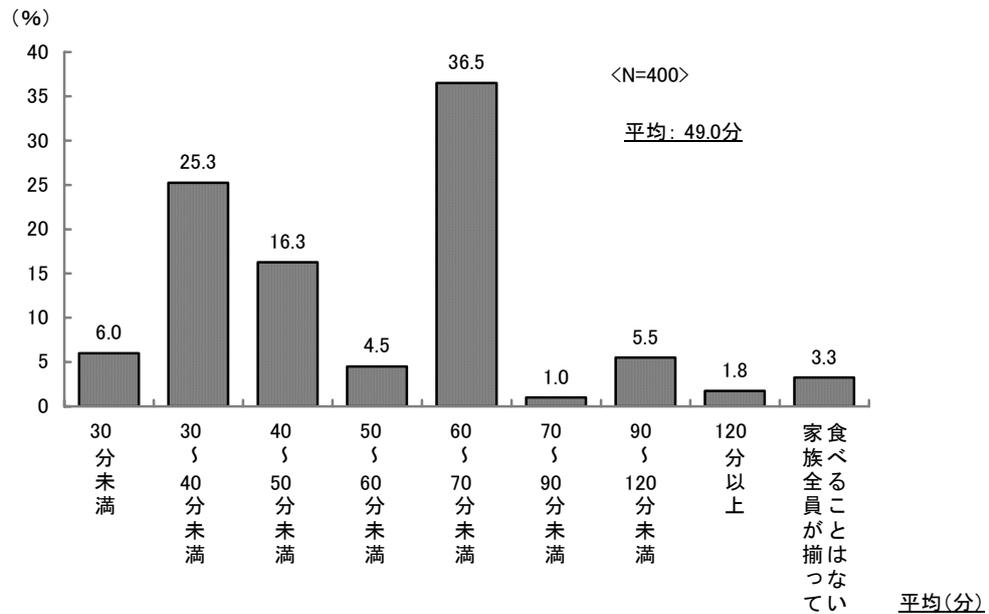
年 代	所要時間						平均(分)
	30分未満	10分～20分未満	20分～30分未満	30分～40分未満	40分以上	家族全員が揃って食べない	
30代 <n=133>	1.5	27.1	18.8	35.3	5.3	12.0	23.1
40代 <n=134>	-	26.9	27.6	24.6	3.0	17.9	21.7
50代 <n=133>	0.8	25.6	21.8	28.6	3.0	20.3	22.4

さらに、家庭で、家族全員が揃って食事を食べる時の所要時間はどのくらいか、『朝食』『夕食』について聞いてみました。

『朝食』を家族揃って食べる時の所要時間をみると、「30～40分未満」(29.5%)が最も多く、以下「10～20分未満」(26.5%)、「20～30分未満」(22.8%)が続き、“10～40分未満”の範囲で8割弱(78.8%)を占めています。また、「家族全員が揃って食べることはない」(16.8%)家庭も1割台みられます。平均所要時間は「22.4分」です。

年齢別にみると、いずれの年齢層でも“10～40分未満”の範囲が4分の3以上の割合ですが、年齢が上の人ほど「家族全員が揃って食べることはない」割合が高くなっています。平均時間は、いずれも22分前後と差はありません。

図 6. 家庭で、ふだん家族全員が揃って『夕食』を食べる時の所要時間



年代	30代 <n=133>	所要時間 (分)								平均(分)
		30分未満	30分~40分未満	40分~50分未満	50分~60分未満	60分~70分未満	70分~90分未満	90分~120分未満	120分以上	
30代	8.3	24.1	18.0	5.3	35.3	0.8	3.8	2.3	2.3	47.9
40代	3.7	23.9	16.4	3.0	40.3	1.5	7.5	2.2	1.5	51.6
50代	6.0	27.8	14.3	5.3	33.8	0.8	5.3	0.8	6.0	47.4

次に、『夕食』を家族揃って食べる時間の所要時間をみると、「60～70分未満」(36.5%)が最も多く、以下「30～40分未満」(25.3%)、「40～50分未満」(16.3%)の順となっています。平均所要時間は「49.0分」です。

年齢別にみると、いずれの年齢層でも「60～70分未満」が最も多くなっています。

なお、同居家族数別に平均所要時間みると、『朝食』は顕著な差はみられませんが、『夕食』では家族数が多い家庭ほど長く、「2～3人」家族が「47.0分」、「4人」家族が「48.2分」、「5人以上」の家族が「53.8分」となっています。

◆前回調査と比較すると、

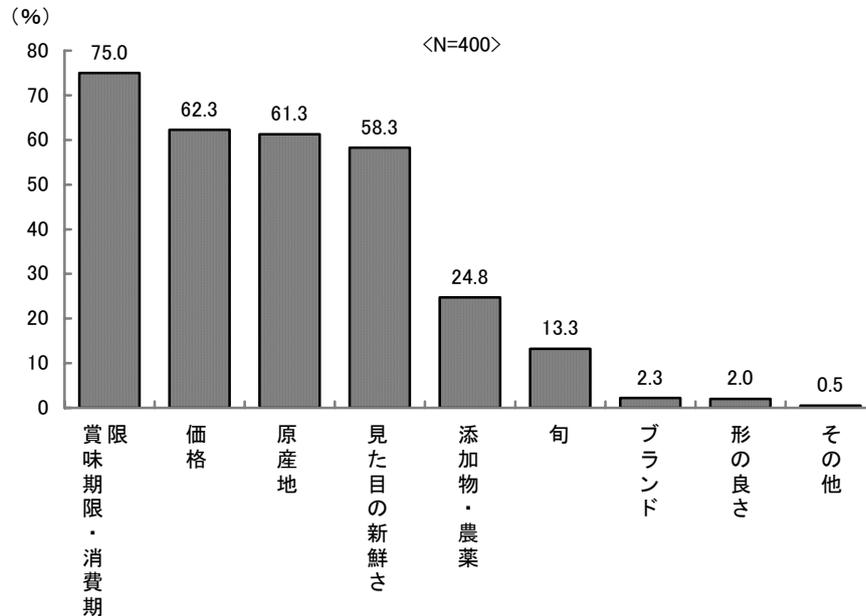
『朝食』は、「10～40分未満」の占める割合が81.3%→78.8%と若干低くなっていますが、平均所要時間は「20.9分」→「22.4分」とあまり変わりません。

『夕食』は、最も多い「60～70分未満」が28.8%→36.5%と8ポイントほど増え、平均所要時間が「45.7分」→「49.0分」と若干長くなっています。

4. 『生鮮食品』を選ぶ時、特に気をつけている点

半数以上の人々が、「賞味期限・消費期限」(75.0%)、「価格」(62.3%)、「原産地」(61.3%)、「見た目の新鮮さ」(58.3%)などに気をつけている

図 7. 『生鮮食品』を選ぶ時、特に気をつけている点（回答は3つまで）



年 代	30代 <n=133>	40代 <n=134>	50代 <n=133>
賞味期限・消費期	69.2	79.1	76.7
価格	72.2	60.4	54.1
原産地	58.6	61.2	63.9
見た目の新鮮さ	67.7	57.5	49.6
添加物・農薬	17.3	26.1	30.8
旬	9.0	13.4	17.3
ブランド	1.5	2.2	3.0
形の良さ	2.3	0.7	3.0
その他	0.8	-	0.8

野菜、魚介類、精肉など『生鮮食品』を選ぶ時、特に気をつけている点を3つまであげてもらったところ、「賞味期限・消費期限」(75.0%)をあげる人が最も多く、4人に3人の割合となっています。続く「価格」(62.3%)、「原産地」(61.3%)、「見た目の新鮮さ」(58.3%)なども半数以上の人々があげています。

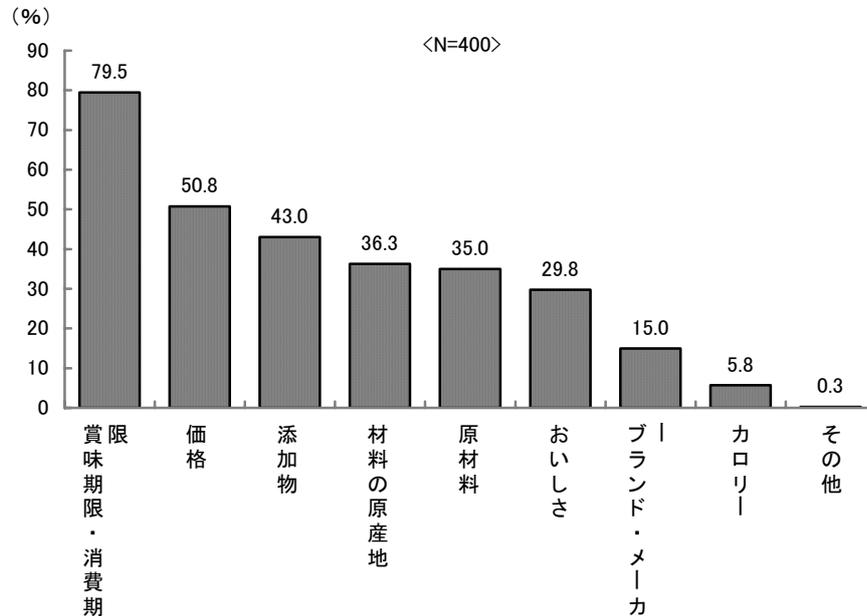
年齢別にみると、「40代」や「50代」では「賞味期限・消費期限」(順に79.1%、76.7%)が最も多くなっていますが、若い人ほど「価格」、「見た目の新鮮さ」をあげる割合が高く、「30代」では「価格」(72.2%)が最も多くなっています。年齢が上の人ほど「原産地」、「添加物・農薬」、「旬」をあげる割合が高く、“食の安全”に対するこだわりが強くなっています。

◆前回調査と比較すると、「賞味期限・消費期限」(74.0%→75.0%)がトップにあげられていることは変わりませんが、「原産地」(33.0%→61.3%)が大幅にアップしているのが目につきます。前回調査以降に起きた“中国産”の諸問題が影響しているようです。また、「添加物・農薬」(18.5%→24.8%)に対するこだわりもやや強くなっていますが、「価格」(71.8%→62.3%)、「旬」(35.3%→13.3%)は減少傾向にあります。

5. 『加工食品』を選ぶ時、特に気をつけている点

“生鮮食品”同様、「賞味期限・消費期限」(79.5%)がトップ。以下「価格」(50.8%)、「添加物」(43.0%)、「材料の原産地」(36.3%)、「原材料」(35.0%)の順

図 8. 加工食品を選ぶ時、特に気をつけている点（回答は3つまで）



年代	割合 (%)									
	30代 <n=133>	賞味期限・消費期	価格	添加物	材料の原産地	原材料	おいしさ	ブランド・メーカー	カロリー	その他
	30代 <n=133>	73.7	67.7	36.1	28.6	30.8	39.8	15.0	2.3	0.8
40代 <n=134>	79.1	43.3	47.8	32.8	39.6	27.6	16.4	6.7	-	
50代 <n=133>	85.7	41.4	45.1	47.4	34.6	21.8	13.5	8.3	-	

次に、『加工食品』を選ぶ時、特に気をつけている点を3つまであげてもらいました。その結果、『生鮮食品』同様、「賞味期限・消費期限」(79.5%)をあげる人が5人に4人の割合と断然多く、以下「価格」(50.8%)、「添加物」(43.0%)、「材料の原産地」(36.3%)、「原材料」(35.0%)が続いています。

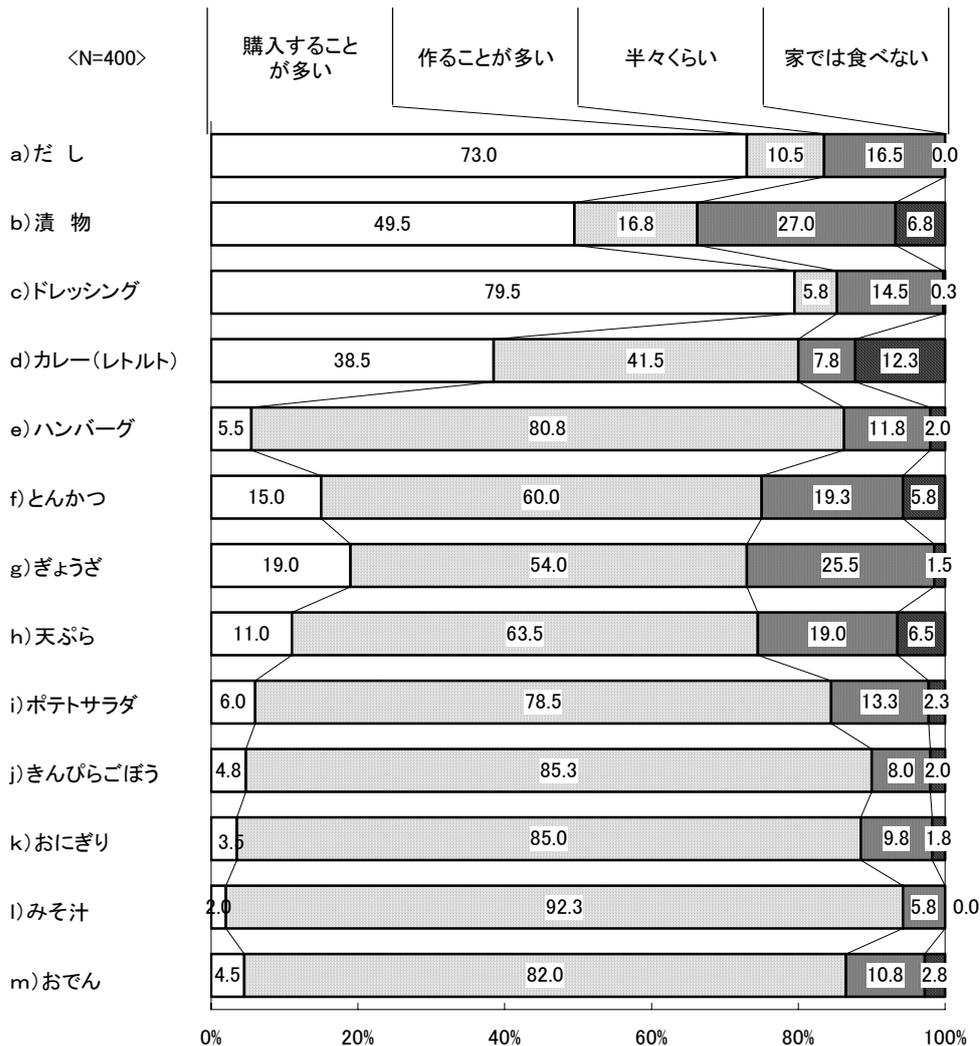
年齢別にみると、いずれの年齢層でも「賞味期限・消費期限」が最も多く、その割合は年齢が上の人ほど高くなっています。また、「材料の原産地」も年齢が上の人ほど高くなっています。一方、若い人ほど「価格」、「おいしさ」をあげる割合が高くなっています。

◆前回調査でも今回同様、「賞味期限・消費期限」(86.0%)、「価格」(62.8%)、「添加物」(46.8%)がトップ3です。前回に比べて「おいしさ」(40.0%→29.8%)の割合が減り、「材料の原産地」(11.5%→36.3%)や「原材料」(26.3%→35.0%)の割合が増えています。“おいしさ”より、まずは“食の安全”を優先する消費者が増えているということでしょうか。

6. 料理・食品は、購入することが多いか、自分で作る人が多いか

- “作ること”より「購入することが多い」料理・食品は、『ドレッシング』(79.5%)、『だし』(73.0%)、『漬物』(49.5%)が上位を占める
- 『みそ汁』(92.3%)、『きんぴらごぼう』(85.3%)、『おにぎり』(85.0%)など、ほとんどの料理・食品は「作る人が多い」が中心だが、“購入と作ること”が「半々くらい」の割合が高いのは『漬物』(27.0%)、『ぎょうざ』(25.5%)、『とんかつ』(19.3%)、『天ぷら』(19.0%)など

図 9. 料理・食品は、購入することが多いか、自分で作る人が多いか



ここでは、13種類の料理・食品について「購入することが多い」のか、「作る人が多い」のかを聞いてみました。

まず、「購入することが多い」という割合が高い料理・食品は、『ドレッシング』(79.5%)と『だし』(73.0%)の2つは7割以上を示し、以下『漬物』(49.5%)、「カレー(レトルト)」(38.5%)が続いています。

年齢別にみても、いずれの年齢層でも『ドレッシング』、『だし』、『漬物』が上位にあげられていますが、若い人ほど『だし』をあげる割合が高く、「30代」(77.4%)ではトップになっています。

次に、「作ることが多い」割合をみると、多くの料理・食品において高い割合を示しています。最も高率な料理・食品は「みそ汁」(92.3%)、以下「きんぴらごぼう」(85.3%)、「おにぎり」(85.0%)、「おでん」(82.0%)、「ハンバーグ」(80.8%)が続いています。この5つの料理・食品は5人に4人以上の割合を示しています。

年齢別にみると、どの年齢層でも『みそ汁』が9割台でトップをはじめ、上位にあげられている料理・食品は全体と変わりません。年齢が上の人ほど『おでん』、『きんぴらごぼう』、『天ぷら』、『とんかつ』の“手作り度”が高くなっています。

また、「半々くらい」と、状況に応じて使い分けている割合が高い料理・食品は、「漬物」(27.0%)、「ぎょうざ」(25.5%)、「とんかつ」(19.3%)、「天ぷら」(19.0%)などが上位にあげられています。

◆前回調査でも“作ること”より「購入することが多い」料理・食品が中心で、トップ3は『ドレッシング』(79.3%)、『だし』(71.0%)、『漬物』(54.8%)と、今回と同じ食品があげられています。

表 1. 前回調査と今回の変化

(%)

	購入することが多い			作ることが多い			半々くらい		
	<a>前回	今回	差 (b-a)	<a>前回	今回	差 (b-a)	<a>前回	今回	差 (b-a)
きんぴらごぼう	13.3	4.8	-8.6	76.8	85.3	8.5	8.0	8.0	0.0
おでん	12.0	4.5	-7.5	70.5	82.0	11.5	17.0	10.8	-6.3
漬物	54.8	49.5	-5.3	17.0	16.8	-0.3	26.3	27.0	0.7
とんかつ	19.5	15.0	-4.5	55.0	60.0	5.0	23.0	19.3	-3.8
天ぷら	14.5	11.0	-3.5	63.0	63.5	0.5	17.8	19.0	1.2
ぎょうざ	22.0	19.0	-3.0	49.8	54.0	4.2	28.3	25.5	-2.8
ポテトサラダ	7.8	6.0	-1.8	72.3	78.5	6.2	19.0	13.3	-5.8
ドレッシング	79.3	79.5	0.2	7.0	5.8	-1.3	13.0	14.5	1.5
みそ汁	0.5	2.0	1.5	97.3	92.3	-5.1	2.3	5.8	3.5
おにぎり	1.8	3.5	1.7	79.0	85.0	6.0	18.8	9.8	-9.1
だし	71.0	73.0	2.0	9.3	10.5	1.2	19.8	16.5	-3.3
ハンバーグ	3.5	5.5	2.0	77.0	80.8	3.8	16.8	11.8	-5.1
カレー(レトルト)	30.5	38.5	8.0	45.5	41.5	-4.0	11.8	7.8	-4.1

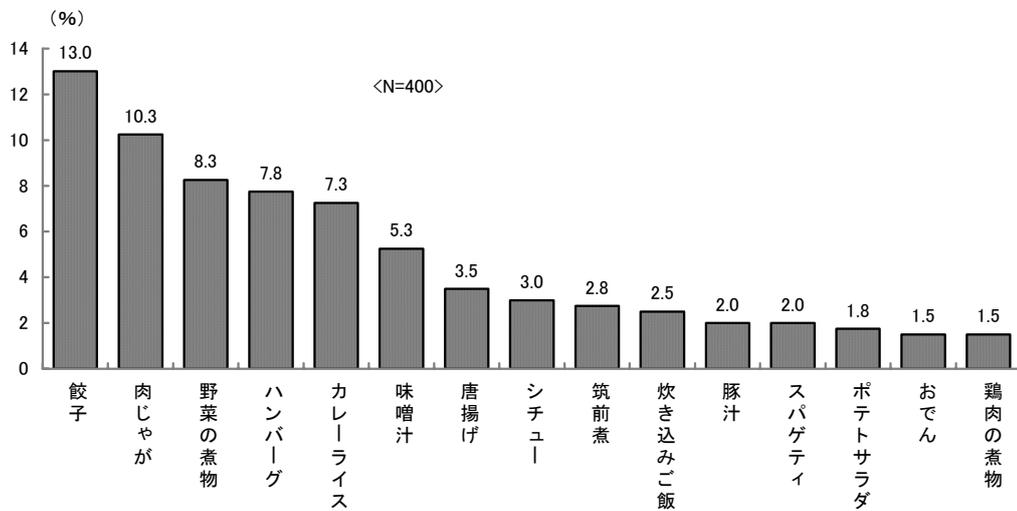
上表のように、前回調査から「購入が減り」「作ることが増えた」料理・食品が目につきます。特にその傾向が強い料理・食品は、『きんぴらごぼう』『おでん』『とんかつ』などです。

反対に、「購入が増え」「作ることが減った」料理・食品は、『カレー(レトルト)』が顕著です。また、「半々くらい」と使い分けしている割合は、減少している料理・食品が多くなっています。

7. “我が家の味” といえばどんな料理か

「餃子」(13.0%)、「肉じゃが」(10.3%)、「野菜の煮物」(8.3%)がベスト3

図 10. “我が家の味” といえばどんな料理か (ベスト 15)



年代	割合 (%)																
	餃子	肉じゃが	野菜の煮物	ハンバーグ	カレーライス	味噌汁	唐揚げ	シチュー	筑前煮	炊き込みご飯	豚汁	スパゲティ	ポテトサラダ	おでん	鶏肉の煮物		
30代 <n=133>	12.0	9.8	3.8	14.3	8.3	4.5	6.0	3.0	-	2.3	1.5	6.0	2.3	0.8	3.0		
40代 <n=134>	17.9	12.7	2.2	6.0	7.5	9.0	3.0	3.0	2.2	3.0	1.5	-	1.5	-	0.7		
50代 <n=133>	9.0	8.3	18.8	3.0	6.0	2.3	1.5	3.0	6.0	2.3	3.0	-	1.5	3.8	0.8		

“我が家の味” といえばどんな料理か、まず思いつく一品を自由にあげてもらいました。その結果、「餃子」(13.0%) が最も多く、以下「肉じゃが」(10.3%)、「野菜の煮物」(8.3%)、「ハンバーグ」(7.8%)、「カレーライス」(7.3%)、「味噌汁」(5.3%)が続いています。

年齢別にみると、子どもの学齢も影響しているのでしょうか、若い人ほど「ハンバーグ」「カレーライス」「唐揚げ」をあげる割合が高く、《30代》では「ハンバーグ」(14.3%)がトップにあげられています。《40代》は「餃子」(17.9%)、《50代》は「野菜の煮物」(18.8%)が最も多くなっています。

以下、作り方など詳細にあげられている料理のレシピをピックアップしてみます。

- ・「しょうが焼き」 ----- 豚肉だけでなく、肉野菜炒めもしょうが焼き風になっている
- ・「オムレツ」 ----- 甘辛く味付けした豚挽肉、みじん切りにしたピーマン・にんじん・たまねぎなどを卵で包む
- ・「ハンバーグ」 ----- 中に玉ねぎ以外の野菜のみじん切りを入れる
- ・「ひじきご飯」 ----- ひじき、にんじん、油揚げを入れ、めんつゆで炊く
- ・「カレー」 ----- メーカーの違うルーを混ぜたり、チョコやコーヒーを入れる時もある
- ・「餃子」 ----- しっかり肉や野菜を詰めてジューシーにする
- ・「唐揚げ」 ----- ニンニクやしょうが、醤油をたっぷり染みこませた肉を揚げる
- ・「味噌汁」 ----- 旬の野菜をたっぷり入れた具だくさんの八丁みそ仕立て

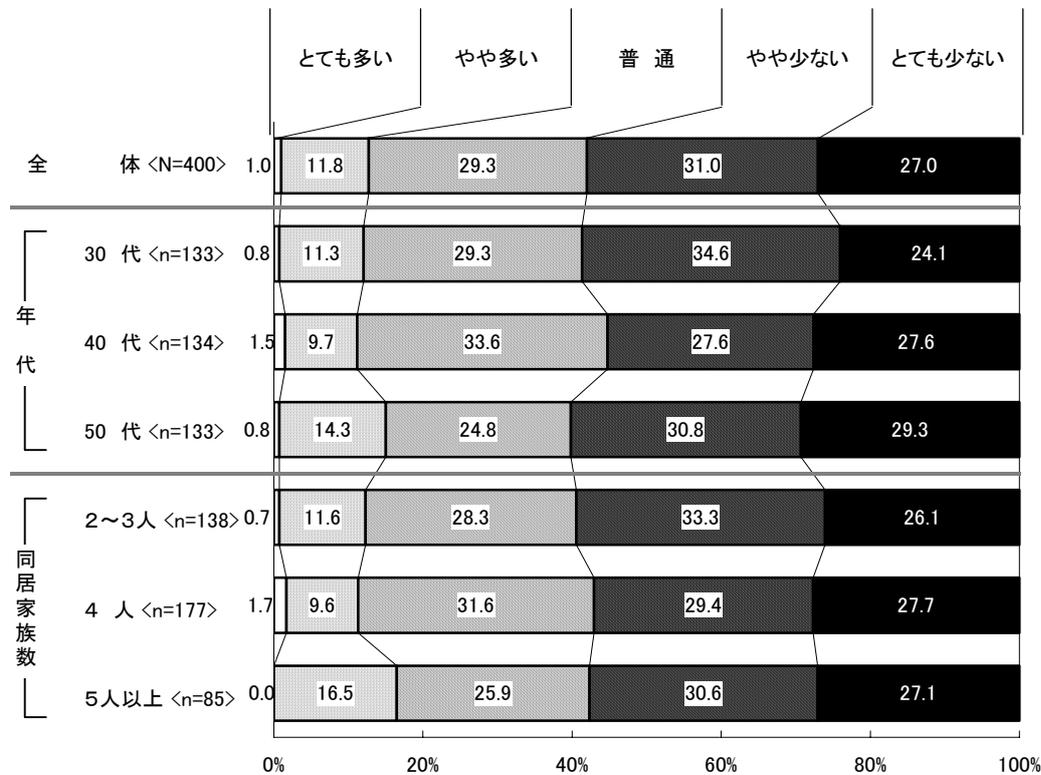
- ・「鍋」 ----- 豆腐、野菜、肉など、入れる物によって味付けは変わる。キムチ、味噌、鶏ガラなど
- ・「チキンカレー」 ----- タマネギのみじん切り、にんじん、りんご、セロリ、にんにく、しょうが、ハーブ、香辛料などを弱火でじっくりと炒め、煮込む。大きめのブツ切りにした鶏肉は焦げ目がつくくらい焼き、ルーに加える

◆前回調査と比較すると、前回もベスト3は「野菜の煮物」(43件)、「餃子」(42件)、「肉じゃが」(34件)で、上位は順位の違いはありますが同じ料理があげられています。

8. 家庭で、食材を購入して使い切れなかったり、食べ残したりして、食品を捨てる量

6割弱(58.0%)は“少ない”としているが、“多い”という人が1割強(12.8%)

図 11. 食材を購入して使い切れなかったり、食べ残したりして、食品を捨てる量が多いほうか



家庭で、食材を購入して使い切れなかったり、食べ残したりして、食品を捨てる量が多い方か、それとも少ない方か聞いてみたところ、「普通」という人が3割(29.3%)いますが、「やや少ない」(31.0%)、「とても少ない」(27.0%)を合わせた“少ない” (58.0%) という人が過半数を占めています。一方、「とても多い」(1.0%)、あるいは「やや多い」(11.8%)といった“多い”という人も1割強(12.8%)います。

年齢別にみると、《50代》では“少ない” (60.2%) が最も高くなっている反面、“多い” (15.0%) も最も高くなっているという興味ある結果がでています。

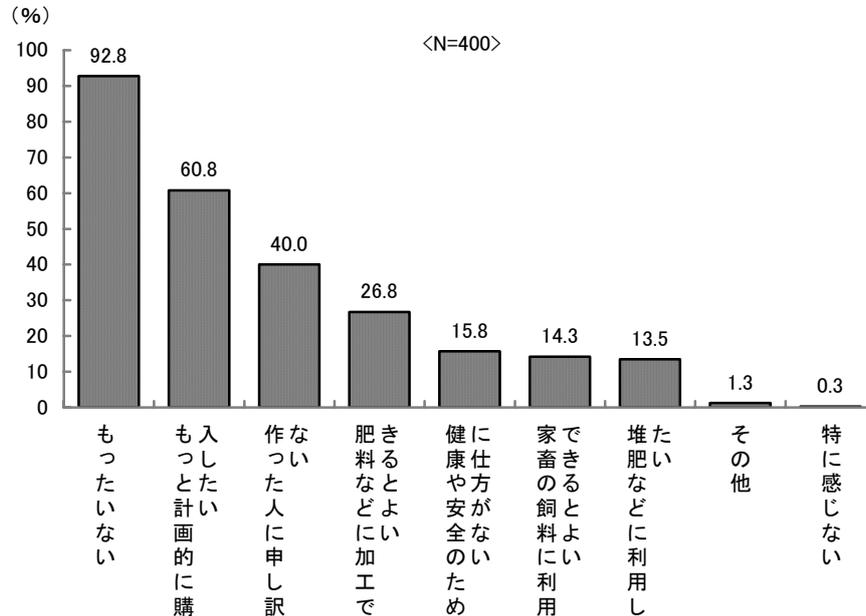
また、同居家族数別にみると、いずれも“少ない”が5割台で過半数を占めていますが、家族数が多い家庭ほど“多い”という割合が高い傾向がみられます。

◆前回調査と比較すると、“多い”は12.5%→12.8%と横ばい、「普通」が34.3%→29.3%と5ポイントダウンし、“少ない”が53.3%→58.0%と約5ポイント増加しています。前回に比べて“節約意識”が若干強くなっているようです。

9. 食品を捨てることについて、どう感じるか

「もったいない」(92.8%)をはじめ、「もっと計画的に購入したい」(60.8%)、「作った人に申し訳ない」(40.0%)など、捨てることに“後ろめたさ”を感じている人がほとんど

図 12. 食品を捨てることについて、どう感じるか（複数回答）



年代	30代 <n=133>	40代 <n=134>	50代 <n=133>
もったいない	89.5	94.0	94.7
も入った計画的に購入したい	64.7	56.0	61.7
作った人に申し訳ない	34.6	44.0	41.4
肥料などに加工できる	26.3	23.1	30.8
健康や安全のために仕方がない	14.3	14.9	18.0
家畜の飼料に利用できる	12.8	11.9	18.0
堆肥などに利用したい	8.3	15.7	16.5
その他	1.5	1.5	0.8
特に感じない	0.8	-	-

では、食品を捨てることについて、どう感じているのでしょうか。

ほとんどの人は「もったいない」(92.8%)と感じ、さらに「もっと計画的に購入したい」(60.8%)、「作った人に申し訳ない」(40.0%)などと、食品を捨てることに“後ろめたさ”を感じている人が多くなっています。加えて、「肥料などに加工できるとよい」(26.8%)、「家畜の飼料に利用できる」とよい」(14.3%)、「堆肥などに利用したい」(13.5%)と、“エコブーム”を反映してか、“再利用を”という人も少なからずみられます。また、「健康や安全のために仕方がない」(15.8%)という人もいますが、「特に感じない」(0.3%)人は極めてわずかです。

いずれの年齢層でも、「もったいない」と感じる人が断然多くなっていますが、その割合は年齢が上の人ほど一層高率です。反面、年齢が上の人ほど「健康や安全のために仕方がない」という割合も高くなっています。

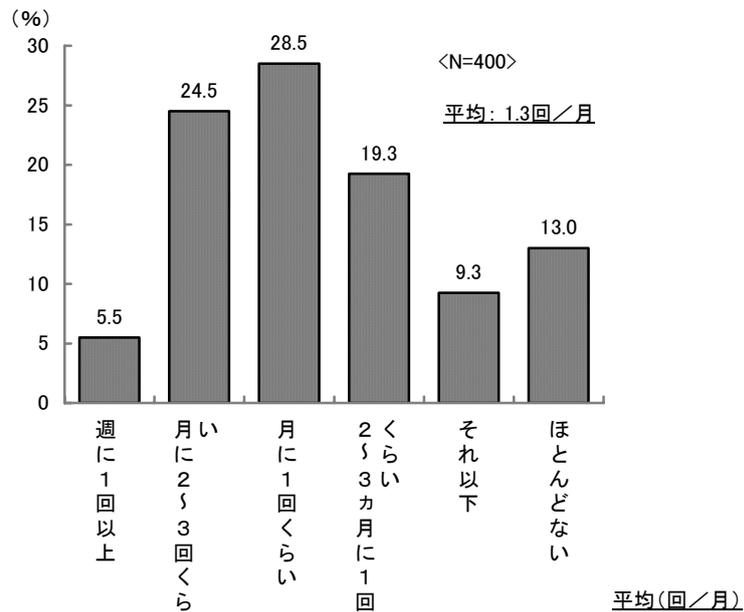
なお、前項の食品を捨てる量別にみても、いずれも「もったいない」が第一である点は変わりませんが、《多い人》では「もっと計画的に購入したい」(80.4%)という割合が、《少ない人》(53.0%)や《普通の人》(67.5%)に比べて高くなっています。

◆前回調査と比較すると、「もったいない」(90.3%→92.8%)、「もっと計画的に購入したい」(57.3%→60.8%)、「作った人に申し訳ない」(29.0%→40.0%)という意識はより一層強くなっています。また、「肥料などに加工できるとよい」(19.8%→26.8%)、「家畜の飼料に利用できる」とよい」(6.8%→14.3%)、「堆肥などに利用したい」(8.3%→13.5%)と、“再利用を”という意識も強くなっています。

10. 家族揃って外食する頻度

「月に1回くらい」(28.5%)が最も多く、平均は「1.3回/月」

図 13. 家族揃って外食する頻度



属性	項目	週に1回以上	月に2~3回くらい	月に1回くらい	2~3カ月に1回	それ以下	ほとんどない	平均(回/月)
年代	30代 <n=133>	10.5	36.1	30.8	12.0	1.5	9.0	1.8
	40代 <n=134>	4.5	25.4	27.6	25.4	6.0	11.2	1.2
	50代 <n=133>	1.5	12.0	27.1	20.3	20.3	18.8	0.7
同居家族数	2~3人 <n=138>	8.0	23.2	25.4	14.5	13.0	15.9	1.3
	4人 <n=177>	4.5	28.8	27.7	22.0	4.5	12.4	1.3
	5人以上 <n=85>	3.5	17.6	35.3	21.2	12.9	9.4	1.1
子供の年齢	小学校低学年以下のみ <n=103>	9.7	39.8	24.3	15.5	1.0	9.7	1.8
	小学校高学年、中学生がいる <n=136>	6.6	27.9	34.6	17.6	6.6	6.6	1.5
	高校生以上のみ <n=159>	1.9	11.9	26.4	22.0	17.0	20.8	0.8

家族揃って外食する頻度をみると、「月に1回くらい」(28.5%)が最も多く、以下「月に2~3回くらい」(24.5%)、「2~3カ月に1回くらい」(19.3%)が続いています。また、「ほとんどない」という家庭も1割強(13.0%)と少なくありません。平均は「1.3回/月」です。

年齢別にみると、若い人ほど「月に1回くらい」、あるいは「月に2~3回くらい」、「週に1回以上」という割合が高くなっています。《30代》では「週に1回以上」の割合が1割(10.5%)と目立ちます。平均も若い人ほど多く、《30代》(1.8回)と《50代》(0.7回)では「1.1回」の差があります。

同居家族数別に平均をみると、家族数の多い《5人以上》家族では「1.1回」と、他の家族数(1.3回)より少なめです。

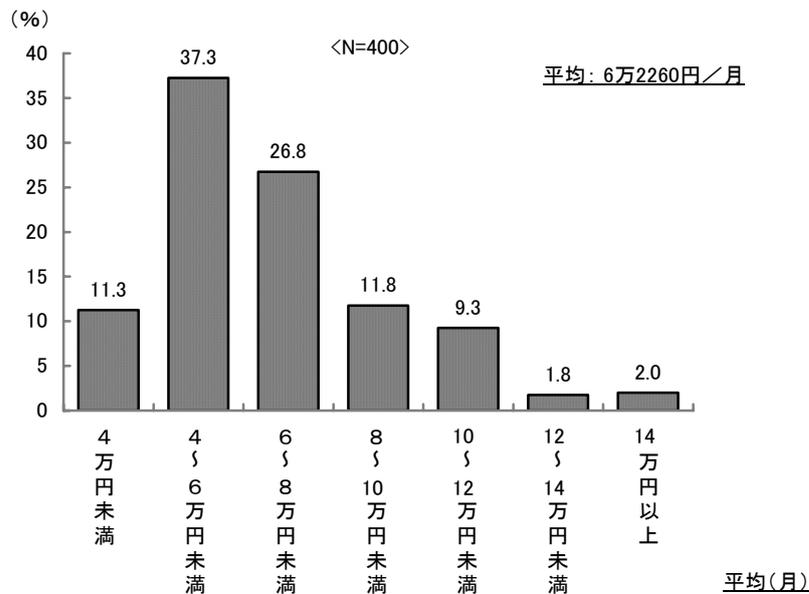
また、子どもの年齢別にみると、小さい子どもがいる家庭ほど平均も多くなっています。

◆前回調査と比較すると、前回も「月に1回くらい」(30.0%)が最も多くなっています。平均は「1.1回」→「1.3回」と若干増えています。

11. 家庭の食費は、一カ月に大体いくらくらいか

- 家庭の一カ月の食費は、「4～6万円未満」(37.3%)、「6～8万円未満」(26.8%)という家庭がほぼ3分の2(64.0%)を占め、平均は「6万2,260円/月」
- 1割(10.5%)の家庭は“野菜など自家生産”している。その“自家生産食品”を市価に換算した一カ月の平均は「1,790円」

図 14. 家庭の食費は、一カ月に大体いくらくらいか



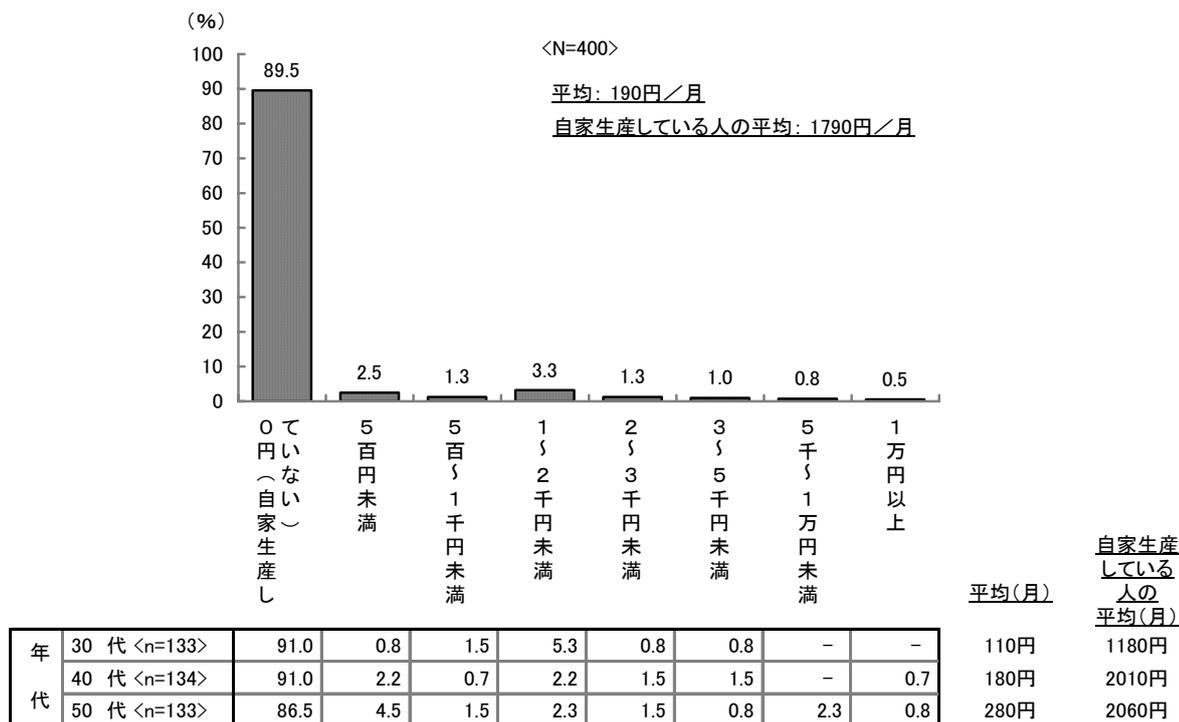
年 代	同 家 居 族 数	平均(月)							平均(円)
		4万未満	4万～6万未満	6万～8万未満	8万～10万未満	10万～12万未満	12万～14万未満	14万以上	
30代 <n=133>		20.3	48.1	22.6	4.5	3.8	0.8	-	5万1190円
40代 <n=134>		9.7	37.3	26.1	12.7	9.7	1.5	3.0	6万4290円
50代 <n=133>		3.8	26.3	31.6	18.0	14.3	3.0	3.0	7万1270円
	2～3人 <n=138>	15.9	36.2	29.0	12.3	5.1	0.7	0.7	5万6670円
	4人 <n=177>	10.2	43.5	26.0	9.0	7.9	2.3	1.1	6万250円
	5人以上 <n=85>	5.9	25.9	24.7	16.5	18.8	2.4	5.9	7万5510円

家庭の食費は、一カ月に大体いくらくらいかをみると、「4～6万円未満」(37.3%)が最も多く、次いで「6～8万円未満」(26.8%)が続き、「4～8万円未満」という家庭がほぼ3分の2(64.0%)を占めています。平均は「6万2,260円/月」です。

年齢別にみると、年齢が上の家庭ほど平均金額も高く、「30代」(5万1190円)と「50代」(7万1270円)では2万円の開きがあります。

同居家族数別にみると、家族数が多い家庭ほど平均金額が高くなっており、「2～3人」家族(5万6670円)と「5人以上」家族(7万5510円)では2万円弱の差があります。

図 15. 自家生産食品を市価に換算した場合、一カ月に大体いくらくらいか



次に、野菜など自家で生産して食べているものがあれば、市価に換算して、一ヵ月平均いくらくらいか聞いてみました。

まず、“自家生産”の有無をみると、「自家生産していない」（89.5%）家庭が9割を占めていますが、「自家生産をしている」家庭が1割（10.5%）います。“自家生産している”家庭の換算額をみると、「500円未満」（2.5%）から「1万円以上」（0.5%）とバラつきがみられ、平均は「1,790円」、年間に換算すると「2万1480円」です。

年齢別にみると、年齢が上の人ほど「自家生産をしている」割合が高く、《50代》では1割強（13.5%）を示しています。

なお、この《自家生産をしている》家庭の先にみた食費の平均は「5万6790円」で、《自家生産していない》家庭（6万2900円）より6千円ほど少なくなっており、自家で野菜を生産し、食費に補填したりしているなど、“節約意識”が高いことがうかがえます。

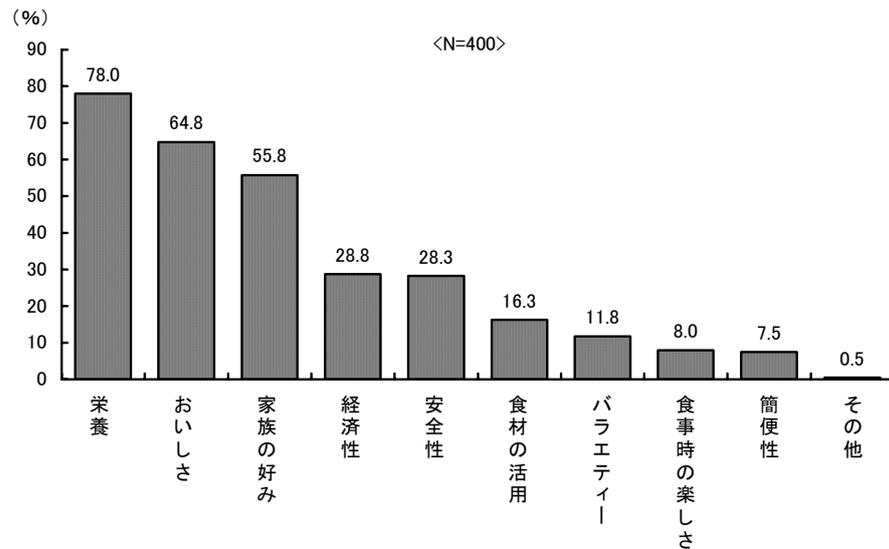
◆前回調査と比較すると、食費は前は「6～8万円未満」（31.8%）が最も多くなっていましたが、今回は「4～6万円未満」（37.3%）にシフトしており、平均も「6万8840円」→「6万2260円」と、6千580円ダウンしています。前回と今回の経済事情を反映している結果です。

また、“自家生産している”割合は7.3%→10.5%とアップしています。しかし、“自家生産している”家庭の換算額は「5,138円」→「1,790円」と大幅に減少しています。

1. 毎日の食生活で特に重視していること

「栄養」(78.0%)が第一。そして、「おいしさ」(64.8%)、「家族の好み」(55.8%)がトップ3

図 16. 毎日の食生活で特に重視していること（回答は3つまで）



年代	30代 <n=133>	40代 <n=134>	50代 <n=133>	2~3人 <n=138>	4人 <n=177>	5人以上 <n=85>	6万円未満 <n=194>	6~10万円未満 <n=154>	10万円以上 <n=52>
栄養	76.7	88.1	69.2	76.1	80.8	75.3	80.4	75.3	76.9
おいしさ	53.4	71.6	69.2	67.4	66.1	57.6	61.3	64.3	78.8
家族の好み	59.4	49.3	58.6	55.8	54.8	57.6	57.2	52.6	59.6
経済性	35.3	25.4	25.6	24.6	29.4	34.1	30.9	29.9	17.3
安全性	21.8	30.6	32.3	30.4	28.8	23.5	23.7	33.1	30.8
食材の活用	20.3	11.2	17.3	18.8	14.1	16.5	20.1	13.6	9.6
バラエティー	7.5	10.4	17.3	11.6	9.6	16.5	7.2	15.6	17.3
食事時の楽しさ	12.8	6.7	4.5	8.0	5.6	12.9	9.8	4.5	11.5
簡便性	11.3	5.2	6.0	6.5	7.3	9.4	8.2	8.4	1.9
その他	-	0.7	0.8	0.7	0.6	-	0.5	0.6	-

毎日の食生活で特に重視していることを3つまであげてもらったところ、「栄養」(78.0%)をあげる人が8割弱と最も多く、家族の健康が最優先されているようです。続く「おいしさ」(64.8%)、「家族の好み」(55.8%)も半数以上の人重視しています。以下「経済性」(28.8%)、「安全性」(28.3%)、「食材の活用」(16.3%)、「バラエティー」(11.8%)の順となっています。

年齢別にみると、いずれの年齢層でも「栄養」が第一ですが、その割合は《50代》では7割(69.2%)と、《30代》(76.7%)や《40代》(88.1%)に比べて低くなっており、「おいしさ」が同率トップとなっています。また、若い人ほど「経済性」、「食事時の楽しさ」を、年齢が上の人ほど「安全性」、「バラエティー」をあげる割合が高くなっています。

同居家族数別にみると、家族数が多い家庭ほど「経済性」を追求し、一方、家族数が少ない家庭ほど「安全性」を重視しています。

なお、先にみた食費別にみると、食費が少ない家庭ほど「経済性」や「食材の活用」に気配りしていることが分かります。

◆前回調査と比較すると、前回も「栄養」(72.8%)が第一をはじめ、上位にあげられている項目は変わりませんが、重視度(比率)の増減が目立ちます。特に「安全性」は11ポイント以上アップしています。

【重視度がアップしている項目】

- ・「栄養」 -----72.8%→78.0% (+5.2%)
- ・「おいしさ」 -----56.8%→64.8% (+8.0%)
- ・「安全性」 -----16.8%→28.3% (+11.5%)

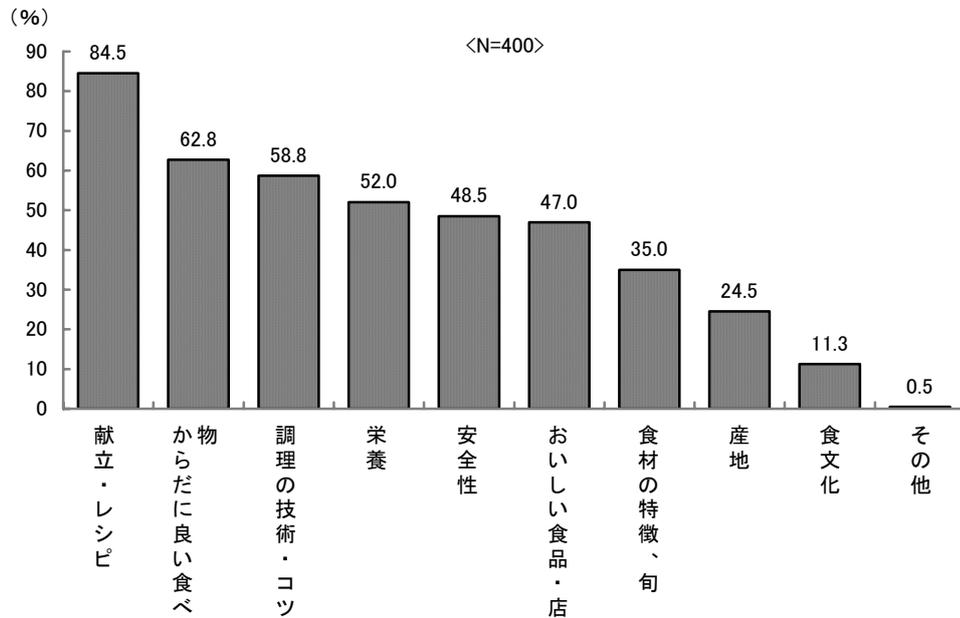
【重視度がダウンしている項目】

- ・「家族の好み」 -----62.5%→55.8% (-6.7%)
- ・「経済性」 -----32.0%→28.8% (-3.2%)
- ・「バラエティー」 -----20.3%→11.8% (-8.5%)

2. “食”について、関心がある・日頃から知りたいと思う・情報を集めている事柄

「献立・レシピ」(84.5%)が断然トップで、献立を考える苦勞がうかがえる。以下、「からだに良い食べ物」(62.8%)、「調理の技術・コツ」(58.8%)、「栄養」(52.0%)、「安全性」(48.5%)、「おいしい食品・店」(47.0%)など、さまざまな情報にアンテナを張っている

図 17. “食”について関心がある、日頃から知りたいと思ったり、情報を集めている事柄（複数回答）



年 代	30代 <n=133>	85.7	52.6	56.4	49.6	37.6	48.1	28.6	16.5	12.8	-
	40代 <n=134>	86.6	62.7	63.4	56.0	46.3	50.7	30.6	26.9	10.4	0.7
	50代 <n=133>	81.2	72.9	56.4	50.4	61.7	42.1	45.9	30.1	10.5	0.8

“食”について関心がある、日頃から知りたいと思ったり、情報を集めている事柄をみると、「献立・レシピ」(84.5%)をあげる人が断然多く、毎日の献立を考えるのに苦勞している人が多いことがうかがえます。加えて「からだに良い食べ物」(62.8%)、「調理の技術・コツ」(58.8%)、「栄養」(52.0%)を半数以上の人があげ、以下、「安全性」(48.5%)、「おいしい食品・店」(47.0%)、「食材の特徴、旬」(35.0%)が続いています。「特にない」という人は皆無で、この情報化社会において、主婦たちはさまざまな“食”に関する情報にアンテナを張り巡らせているようです。

年齢別にみても、いずれの年齢層でも「献立・レシピ」が8割台でトップをはじめ、上位にあげられている項目は全体と変わりませんが、「からだに良い食べ物」、「安全性」など、年齢が上の人ほど高率を示している項目が目立ちます。年齢が上の人ほどさまざまな情報にアンテナを張っていることがうかがえます。

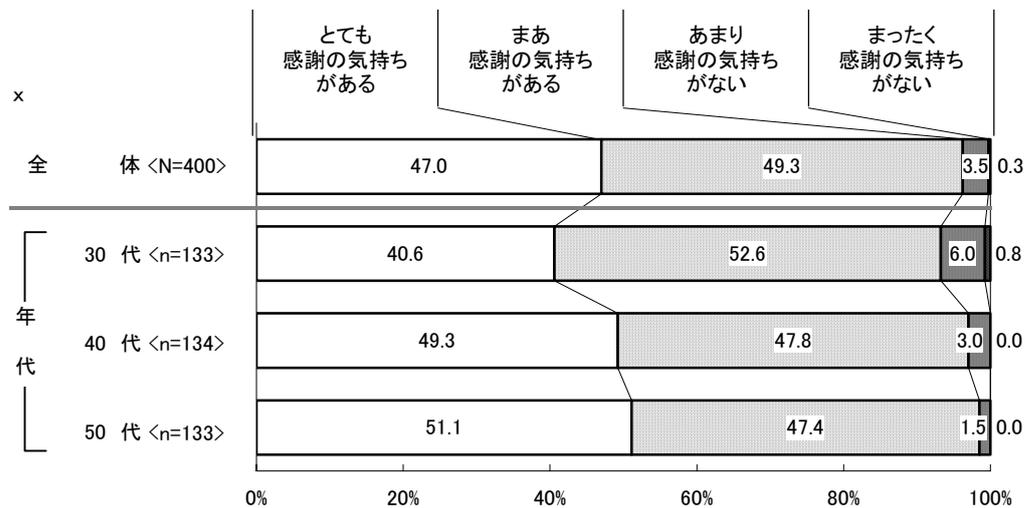
◆前回調査と比較すると、前回も今回同様、トップ3は「献立・レシピ」(77.5%)、「からだに良い食べ物」(56.3%)、「調理の技術・コツ」(51.3%)があげられています。全項目が前回に比べて比率がアップしており、特に「安全性」(36.8%→48.5% : +11.7%)と「産地」(10.0%→24.5% : +14.5%)のアップが目立ちます。前回に増して、さまざまな“食”に関する情報を参考にしているようです。

3. “食”に関する感謝の気持ちを持っているか

「とても感謝の気持ちがある」(47.0%)、「まあ感謝の気持ちがある」(49.3%)を合わせると、ほぼ全員が“感謝の気持ちがある”(96.3%)

●感謝の気持ちは、「おいしいものがおいしく食べられることに対して」(74.0%)、「農業・漁業・酪農従事者に対して」(59.7%)、「自然の恩恵に対して」(57.4%)、「食べ物のいのちを食べることに対して」(46.0%)など

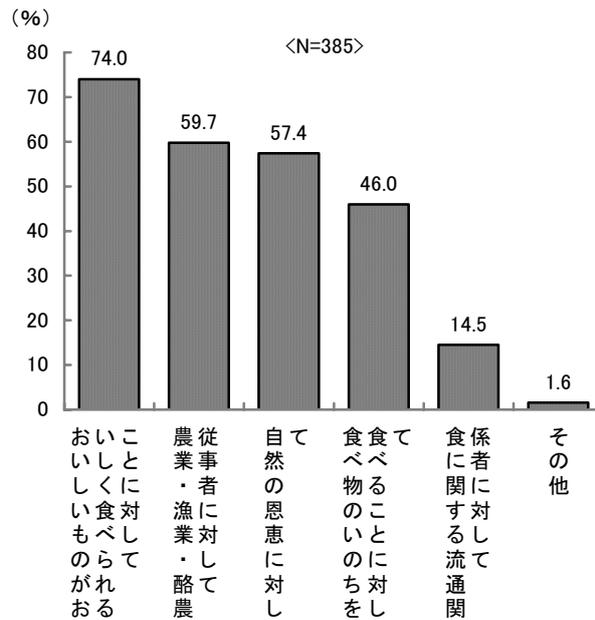
図 18. “食”に関する感謝の気持ちを持っているか



“食”に関する感謝の気持ちを持っているか聞いてみたところ、「とても感謝の気持ちがある」(47.0%)、あるいは「まあ感謝の気持ちがある」(49.3%)がそれぞれ半数近くを占め、合わせてほぼ全員が“感謝の気持ちがある”(96.3%)と回答しています。一方、“感謝の気持ちがない”(3.8%)という人も少数います。

年齢別にみると、いずれの年齢層でも大半が“感謝の気持ちがある”としていますが、年齢が上の人ほど“とても感謝の気持ちがある”という割合が高くなっています。

図 19. どんなことに感謝の気持ちがあるか（複数回答）



年代	30代 <n=124>		40代 <n=130>		50代 <n=131>	
	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)
30代	69.4	58.1	50.8	40.3	14.5	1.6
40代	71.5	56.2	53.8	53.1	9.2	2.3
50代	80.9	64.9	67.2	44.3	19.8	0.8

では、どんなことに感謝の気持ちを持っているのかをみると、「おいしいものがおいしく食べられることに対して」（74.0%）をあげる人が最も多く、次いで「農業・漁業・酪農従事者に対して」（59.7%）と生産者に対する感謝の気持ちを忘れない人も多く、以下「自然の恩恵に対して」（57.4%）、「食べ物のおいしさを食べることにし」（46.0%）、「食に係る流通関係者に対して」（14.5%）が続いています。

年齢別にみると、いずれの年齢層でも「おいしいものがおいしく食べられることに対して」が最も多くなっていますが、その割合は年齢が上の人ほど一層高くなっています。また、「自然の恩恵に対して」も年齢が上の人ほど高くなっています。

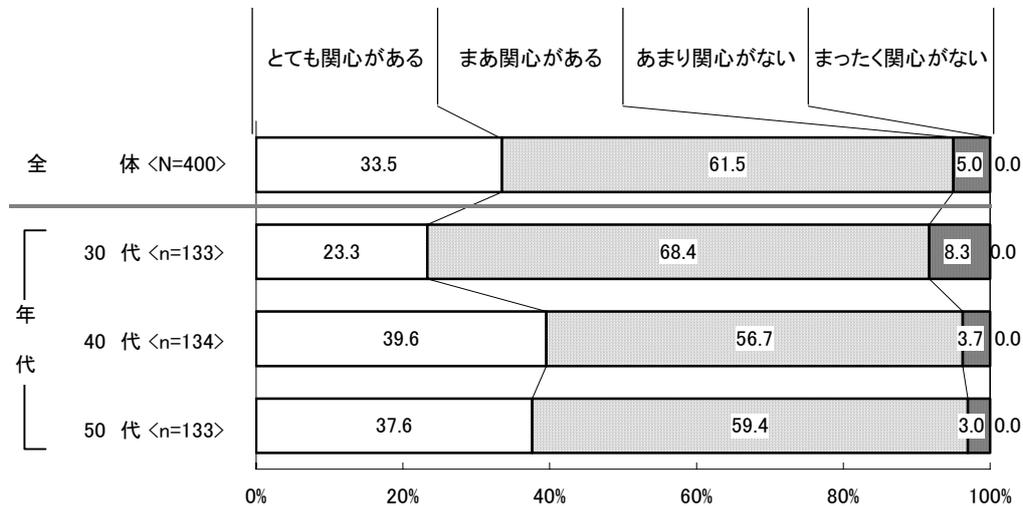
●この質問は、前回は聞いていません。

4. “食の安全”について、どの程度関心を持っているか

「とても関心がある」(33.5%)、あるいは、「まあ関心がある」(61.5%)を合わせて、ほぼ全員が“関心がある”(95.0%)

●関心があるのは、「食品添加物」(83.7%)がトップ。以下、「輸入食品」(73.4%)、「残留農薬」(57.9%)、「食品偽装」(57.1%)、「遺伝子組換え食品」(48.2%)の順

図 20. “食の安全”について、どの程度関心を持っているか

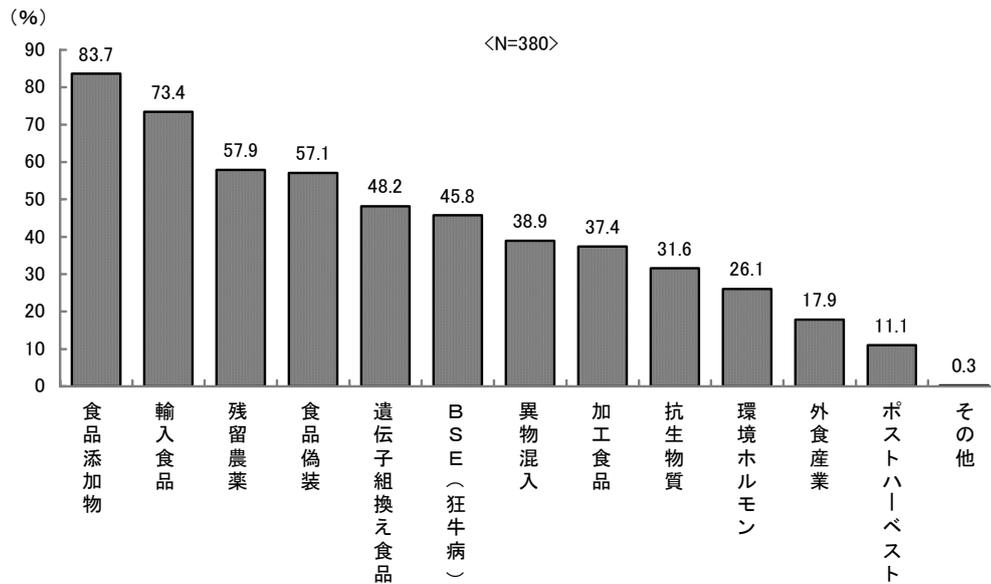


次に、“食の安全”について、どの程度関心を持っているかをみると、「とても関心がある」(33.5%)が3人に1人の割合、「まあ関心がある」(61.5%)が過半数を占め、合わせて大半の人が“関心がある”(95.0%)と回答しています。“食の安全”に関する出来事がマスコミなどで頻繁に目にする昨今、“食の安全”への関心の広がりが見えます。

年齢別にみても、いずれの年齢層でも“関心がある”が9割以上を占めていますが、年齢が上の人ほど一層高率を示しています。

◆前回調査と比較すると、「とても関心がある」(16.3%→33.5%)が2倍近く増え、“関心がある”割合が88.8%→95.0%と、さらにアップしています。

図 21. どんなことに関心があるか（複数回答）



年 代	30代 <n=122>	40代 <n=129>	50代 <n=129>	食品添加物	輸入食品	残留農薬	食品偽装	遺伝子組換え食品	BSE (狂牛病)	異物混入	加工食品	抗生物質	環境ホルモン	外食産業	ポストハーベスト	その他
30代	77.0	66.4	52.5	53.3	40.2	35.2	44.3	32.8	23.8	13.9	12.3	4.1	-			
40代	84.5	67.4	56.6	55.8	50.4	44.2	33.3	37.2	28.7	27.1	17.8	10.9	0.8			
50代	89.1	86.0	64.3	62.0	53.5	57.4	39.5	41.9	41.9	36.4	23.3	17.8	-			

では、「関心がある」人（380名）が具体的にはどんなことに関心があるのかをみると、「食品添加物」（83.7%）が最も多く、以下、「輸入食品」（73.4%）、「残留農薬」（57.9%）、「食品偽装」（57.1%）、「遺伝子組換え食品」（48.2%）、「BSE（狂牛病）」（45.8%）が続いています。

年齢別にみると、全般的に年齢が上の人ほど高率を示している項目が多く、年齢が上の人ほどさまざまなことに関心を持っていることがうかがえます。

◆前回調査と比較すると、前回も「食品添加物」（85.9%）がトップでしたが、前回、マスコミを賑わせていた「BSE（狂牛病）」（62.5%）が第2位にあげられていました。反対に、前回ではあまり話題にならなかった「食品偽装」（57.1%）が今回4位、「異物混入」（38.9%）が7位にあげられています。そのほか、前回より比率がアップしている項目が目立ちます。

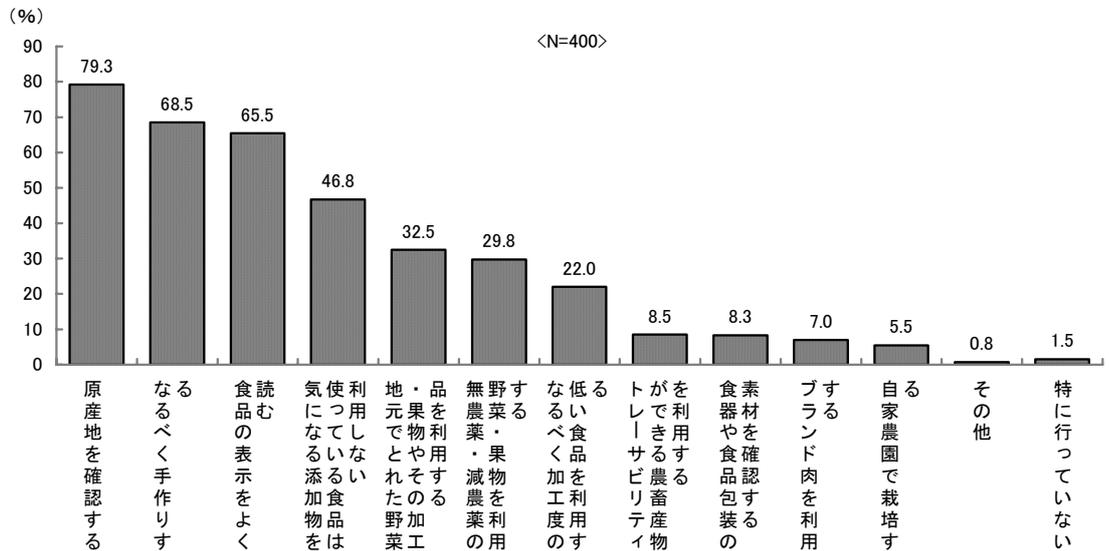
【前回に比べて比率が10ポイント以上アップしている項目】

- ・「輸入食品」 ----- 48.5%→73.4% （+24.9%）
- ・「残留農薬」 ----- 42.8%→57.9% （+15.1%）
- ・「加工食品」 ----- 26.8%→37.4% （+10.6%）
- ・「外食産業」 ----- 7.6%→17.9% （+10.3%）

5. “安全な食”のための対応や、生活習慣として、実行していること

「原産地を確認する」(79.3%)がトップ。以下、「なるべく手作りする」(68.5%)、「食品の表示をよく読む」(65.5%)、「気になる添加物を使っている食品は利用しない」(46.8%)、「地元でとれた野菜・果物やその加工品を利用する」(32.5%)の順

図 22. “安全な食”のための対応や、生活習慣として、実行していること（複数回答）



年代	30代 <n=133>	40代 <n=134>	50代 <n=133>	とても関心がある <n=134>	まあ関心がある <n=246>	関心がない <n=20>
原産地を確認する	74.4	76.1	87.2	85.8	76.8	65.0
なるべく手作りする	62.4	71.6	71.4	79.9	65.0	35.0
食品の表示をよく読む	63.9	64.2	68.4	77.6	61.4	35.0
気になる添加物を使っている食品は利用しない	36.8	45.5	57.9	61.2	41.9	10.0
地元でとれた野菜・果物やその加工品を利用する	28.6	29.1	39.8	40.3	29.7	15.0
無農薬・減農薬の野菜・果物を利用する	21.8	29.1	38.3	49.3	20.7	10.0
低い食品加工度の製品を利用する	16.5	20.9	28.6	23.1	22.0	15.0
トイレットペーパーやティッシュなど、できる限り農畜産物を利用する	4.5	9.0	12.0	18.7	3.7	-
食器や食品包装の素材を確認する	5.3	8.2	11.3	11.2	7.3	-
ブランド肉を利用する	4.5	4.5	12.0	13.4	4.1	-
自家農園で栽培する	3.0	5.2	8.3	8.2	4.5	-
その他	-	0.7	1.5	1.5	0.4	-
特に行っていない	3.8	0.7	-	-	1.2	15.0

“安全な食”のための対応や、生活習慣として、実行していることをみると、「原産地を確認する」(79.3%)が最も多く、マスコミなどで話題になった“中国産”の食品への不信感などが影響しているようです。以下、「なるべく手作りする」(68.5%)、「食品の表示をよく読む」(65.5%)、「気になる添加物を使っている食品は利用しない」(46.8%)、「地元でとれた野菜・果物やその加工品を利用する」(32.5%)が続いています。

年齢別にみると、いずれの年齢層でも「原産地を確認する」が最も多くなっています。全般的に年齢が上の人ほど高率を示している項目が多く、年齢が上の人ほど“安全な食”のためにいろいろな点に気配りをしていることがうかがえます。

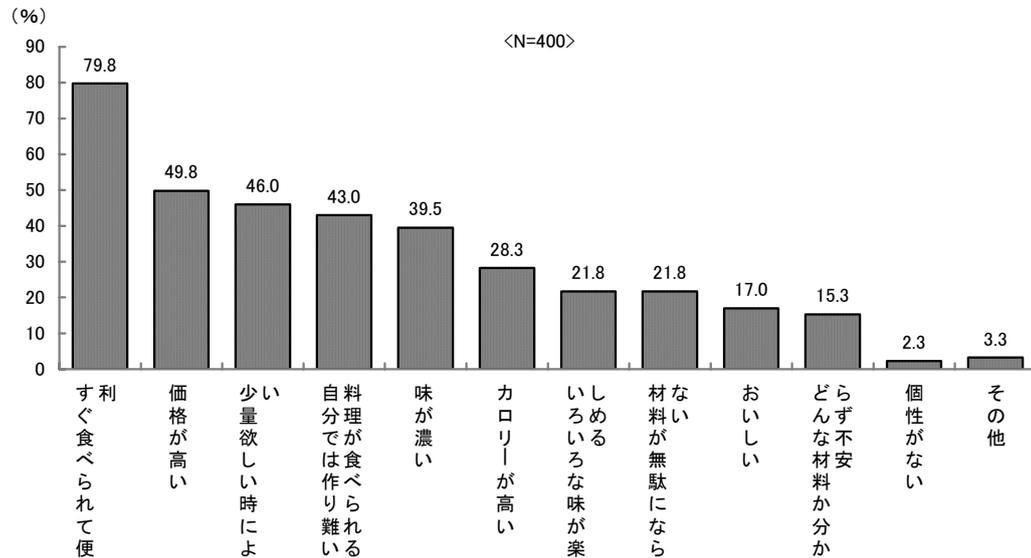
なお、食の安全への関心度が高い人ほど、すべての項目で高率を示しています。特に、「とても関心がある」人では「無農薬・減農薬の野菜・果物を利用する」(49.3%)、「気になる添加物を使っている食品は利用しない」(61.2%)で、「まあ関心がある」人（順に 20.7%、41.9%）との差が大きくなっているのが目につきます。

◆前回調査と比較すると、前回3位にランクされていた「原産地を確認する」(47.8%→79.3% : +31.5%)が大幅に比率を伸ばし、今回トップになっているのが注目されます。前回1位であった「なるべく手作りする」(61.3%→68.5%)は今回は2位に順番を下げています。また、すべての項目において、前回より比率が伸びており、“安全な食”のため環境が多様化しているようです。

6. “出来合いの惣菜”について、どう考えているか

「すぐ食べられて便利」(79.8%)が第一。そして、「少量欲しい時によい」(46.0%)、「自分では作り難い料理が食べられる」(43.0%)などの利点もあるが、「価格が高い」(49.8%)、「味が濃い」(39.5%)、「カロリーが高い」(28.3%)などの“否定的な”意見も

図 23. “出来合いの惣菜”について、どう考えているか（複数回答）



年代	30代 <n=133>	40代 <n=134>	50代 <n=133>
すぐ食べられて便利	85.7	76.9	76.7
価格が高い	49.6	48.5	51.1
少量欲しい時によい	36.1	47.0	54.9
自分では作り難い料理が食べられる	52.6	41.8	34.6
味が濃い	33.8	32.8	51.9
カロリーが高い	20.3	23.1	41.4
いろいろな味が楽しめる	23.3	23.9	18.0
材料が無駄にならない	18.0	22.4	24.8
おいしい	19.5	20.1	11.3
どんな材料か分からず不安	11.3	16.4	18.0
個性がない	1.5	1.5	3.8
その他	3.0	3.0	3.8

“出来合いの惣菜”について、どう考えているか、その評価をみると、「すぐ食べられて便利」(79.8%)という人が群を抜いて多くなっています。そのほか、「少量欲しい時によい」(46.0%)、「自分では作り難い料理が食べられる」(43.0%)、「いろいろな味が楽しめる」(21.8%)などの利点があげられています。一方、「価格が高い」(49.8%)が第2位をはじめ、「味が濃い」(39.5%)、「カロリーが高い」(28.3%)などの“否定的な”考えも多くみられます。

これを肯定、否定に分けてみると、“肯定的”項目には9割強(92.3%)が支持していますが、“否定的”な項目にも7割強(73.5%)が反応しています。なお、4人に1人強(26.0%)が“肯定的項目のみ”に反応しています。

年齢別にみると、いずれの年齢層でも「すぐ食べられて便利」が最も多くなっていますが、その割合は若い人ほど一層高率を示しています。また、若い人ほど「自分では作り難い料理が食べられる」をあげる割合も高くなっています。反対に、年齢が上の人ほど「少量欲しい時によい」といった肯定的な項目で高くなっている反面、「味が濃い」「カロリーが高い」「どんな材料か分からず不安」など否定的な項目でも高くなっているのが目につきます。

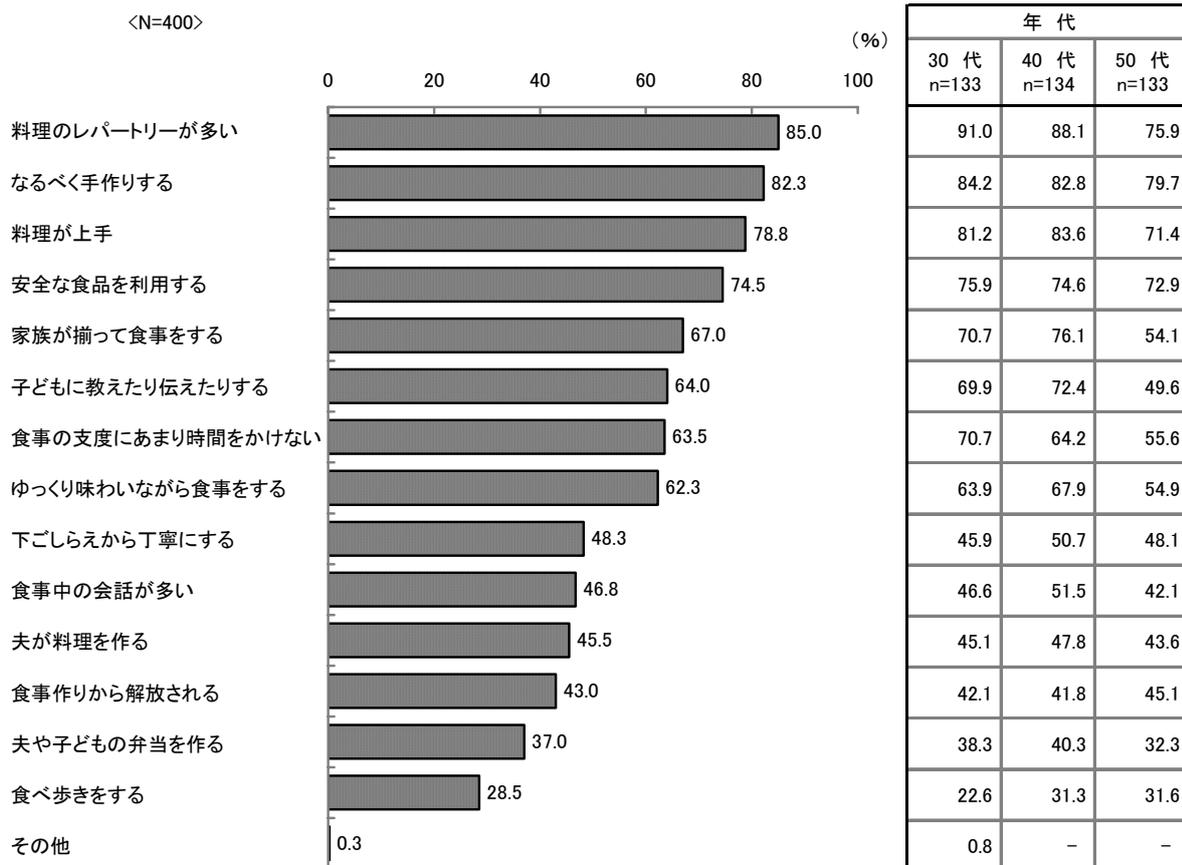
また、肯定、否定にまとめてみると、若い人ほど“肯定的”項目を、年齢が上の人ほど“否定的”な項目をあげる割合が高くなっています。さらに、若い人ほど“肯定的項目のみ”をあげる割合が高くなっており、《30代》では3割強(31.6%)に達しています。

◆前回調査と比較すると、前回は「すぐ食べられて便利」(73.8%)、「少量欲しい時によい」(55.3%)、「自分では作り難い料理が食べられる」(45.3%)がトップ3でしたが、今回「価格が高い」をあげる割合が41.0%→49.8%と9ポイント近く増え、第2位にランクされています。そのほか「味が濃い」(29.3%→39.5%)、「カロリーが高い」(18.3%→28.3%)、「どんな材料か分からず不安」(10.8%→15.3%)と、多くの否定的な項目で比率がアップしているのが注目されます。

7. 自分自身や家庭の食生活について望んでいること、実現していること

- 4人に3人以上が、「料理のレパートリーが多い」(85.0%)、「なるべく手作りする」(82.3%)、「料理が上手」(78.8%)、「安全な食品を利用する」(74.5%)を“望んでいる”
- 5人に2人以上が、「なるべく手作りする」(76.3%)、「夫や子どもの弁当を作る」(51.5%)、「食事の支度にあまり時間をかけない」(43.3%)、「食事の会話が多い」(41.0%)などを“実現している”
- 「料理のレパートリーが多い」を“望んでいる”人の“実現している”割合は1割強(13.2%)

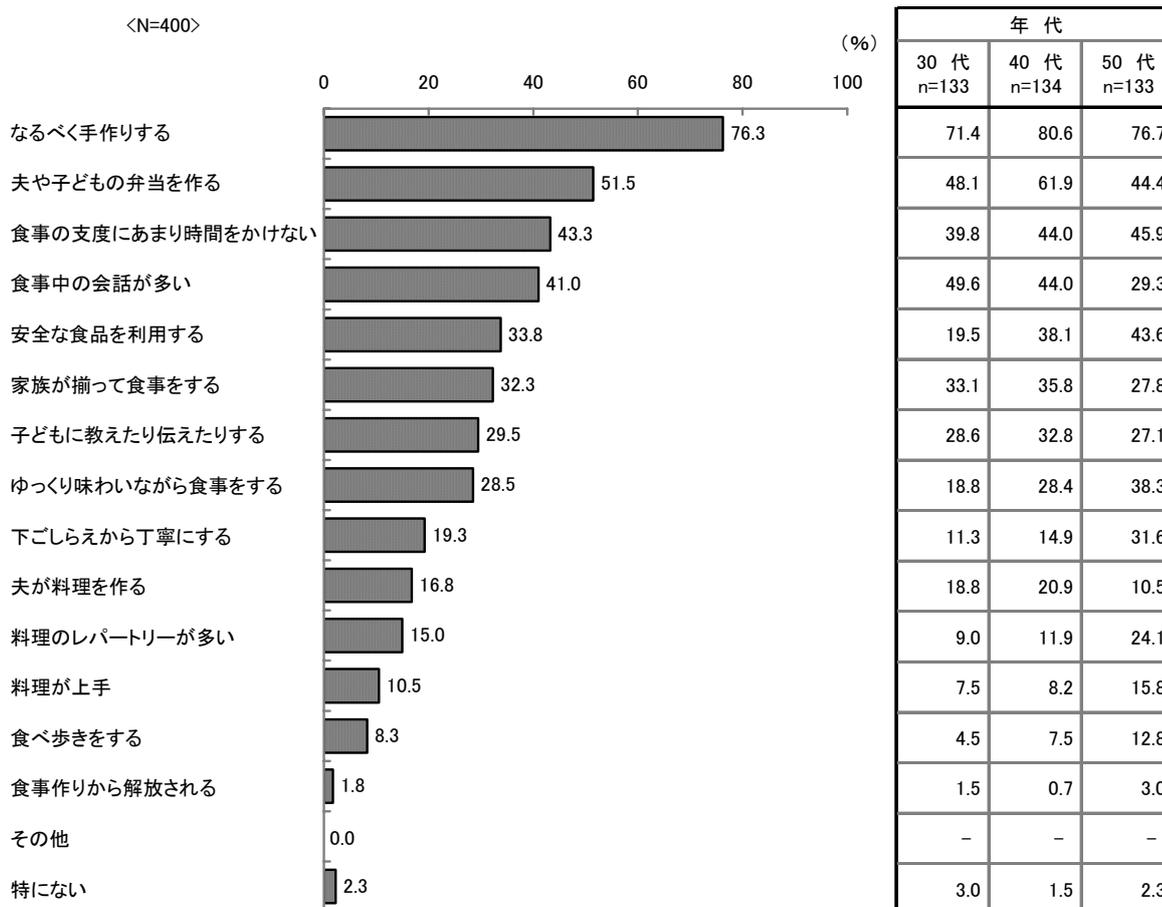
図 24. 自分自身や家庭の食生活について望んでいること（複数回答）



まず、自分自身や家庭の食生活について望んでいることをみると、「料理のレパートリーが多い」(85.0%)をあげる人が最も多く、差なく「なるべく手作りする」(82.3%)、「料理が上手」(78.8%)が続き、「料理の技術向上」を望んでいる人が多くなっています。以下「安全な食品を利用する」(74.5%)、「家族が揃って食事をする」(67.0%)、「子どもに教えたり伝えたりする」(64.0%)、「食事の支度にあまり時間をかけない」(63.5%)、「ゆっくり味わいながら食事をする」(62.3%)と続き、これらは5人に3人以上が“実現したい”と希望しています。

年齢別にみると、《30代》《40代》では「料理のレパートリーが多い」(順に91.0%、88.1%)が、《50代》では「なるべく手作りする」(79.7%)がトップですが、上位にあげられている項目は全体とあまり変わりません。若い人ほど「料理のレパートリーが多い」、「なるべく手作りする」、「安全な食品を利用する」、「食事の支度にあまり時間をかけない」などをあげる割合が高くなっています。一方、年齢が上の人ほど「食べ歩きをする」割合が高くなっています。

図 25. 自分自身や家庭の食生活について実現していること（複数回答）



次に、自分自身や家庭の食生活について**実現していること**を、望む、望まないにかかわらず、あげてもらいました。

その結果、“望んでいること”で第2位にあげられていた「なるべく手作りする」(76.3%)が最も多く、以下「夫や子どもの弁当を作る」(51.5%)、「食事の支度にあまり時間をかけない」(43.3%)、「食事での会話がが多い」(41.0%)、「安全な食品を利用する」(33.8%)、「家族が揃って食事をする」(32.3%)が続いています。“望んでいること”で第1位の「料理のレパートリーが多い」(15.0%)や第3位の「料理が上手」(10.5%)は1割台にとどまっています。

年齢別にみると、いずれの年齢層でも「なるべく手作りする」が最も多くなっています。年齢が上の人ほど「食事の支度にあまり時間をかけない」、「安全な食品を利用する」、「ゆっくり味わいながら食事をする」、「下ごしらえから丁寧にする」をあげる割合が高くなっています。また、“望んでいること”で上位の「料理のレパートリーが多い」や「料理が上手」も年齢が上の人ほど高くなっています。参考までに、前述の「夕食の支度」にかける平均時間は、《30代》(55.9分)、《40代》(60.8分)、《50代》(59.0分)と、現状では若い《30代》が最も短くなっています。

なお、先にみた家族揃って夕食をとる回数が《週に4回以上》の家庭では「家族揃っての食事」(67.7%)が「な

るべく手作りする」(78.2%)に次いで第2位にあげられ、「食事中の会話が多い」(53.4%)が第3位になっているのが注目されます。家族揃って楽しい夕食を食べている光景が浮かびます。

◆前回調査と比較すると、前回の“望んでいること”のトップ3は、「料理のレパートリーが多い」(79.3%)、「料理が上手」(75.8%)、「なるべく手作りする」(70.5%)と、順番は違いますが、今回と同じ項目があげられています。なお、「食事作りから解放される」(52.0%→43.0%)と「食べ歩きをする」(42.8%→28.5%)は前回から比率を下げているですが、前回に比べ比率を伸ばしている項目が数多くみられます。前回よりいろいろなことを望んでいることがうかがえます。

また、前回の“実現していること”のトップ3は、「なるべく手作りする」(74.3%)、「夫や子どもの弁当を作る」(43.8%)、「食事の支度にあまり時間をかけない」(42.0%)で、今回と同じ項目があげられています。全般的に、今回上位にあげられている項目は、前回より比率がアップしている項目が目につきます。

表 2. 願望達成度

	<A> 望んでいること	 実現していること	<B/A> 願望達成度
夫や子どもの弁当を作る	148名	113名	76.4%
なるべく手作りする	329名	250名	76.0%
食事中の会話が多い	187名	104名	55.6%
食事の支度にあまり時間をかけない	254名	121名	47.6%
安全な食品を利用する	298名	109名	36.6%
子どもに教えたり伝えたりする	256名	92名	35.9%
家族が揃って食事をする	268名	96名	35.8%
ゆっくり味わいながら食事をする	249名	84名	33.7%
下ごしらえから丁寧にする	193名	48名	24.9%
夫が料理を作る	182名	39名	21.4%
食べ歩きをする	114名	19名	16.7%
料理のレパートリーが多い	340名	45名	13.2%
料理が上手	315名	30名	9.5%
食事作りから解放される	172名	3名	1.7%

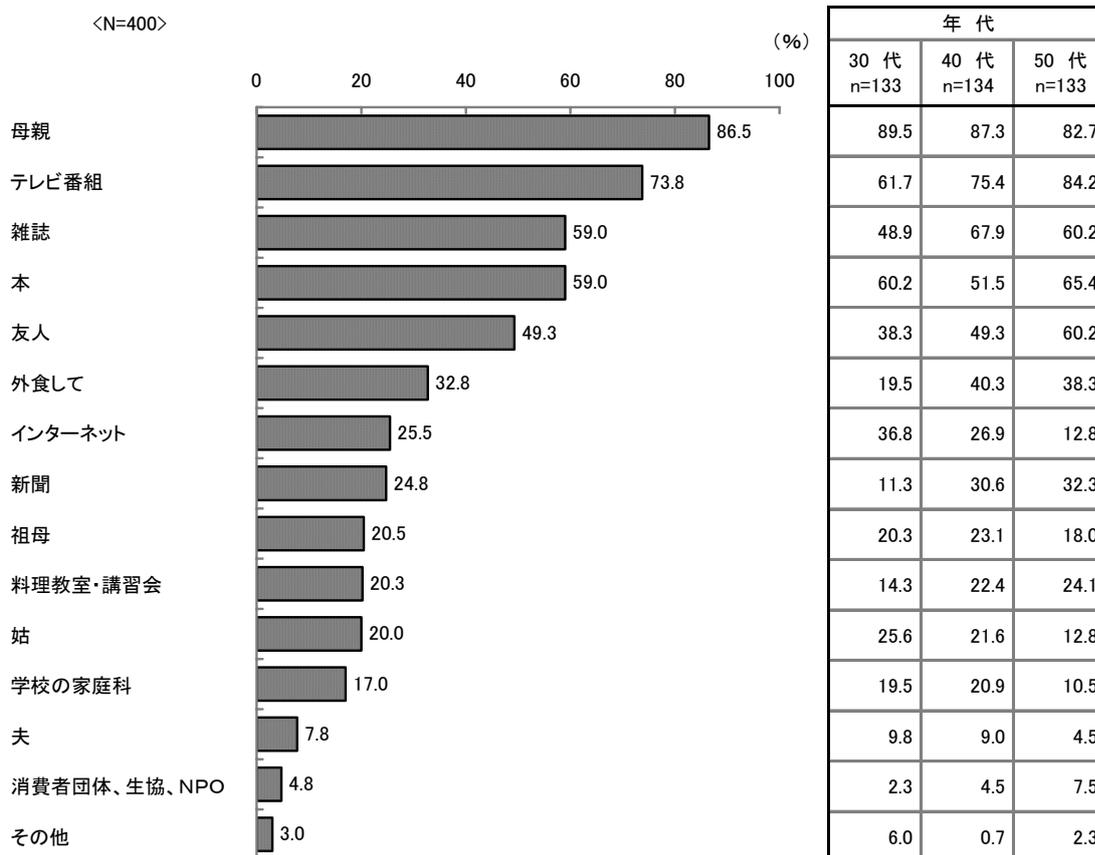
ちなみに、“願望達成度”（望んでいる人のうち、どれくらいが実現しているか、その割合）をみると、「夫や子どもの弁当を作る」(76.4%)、「なるべく手作りする」(76.0%)、「食事中の会話が多い」(55.6%)の3つが“望んでいる”人の半数以上が実現しています。また、“望んでいること”で上位の「料理のレパートリーが多い」(13.2%)、「料理が上手」(9.5%)の達成度は1割前後にとどまっています。

◆前回調査の達成度は、「なるべく手作りする」(70.9%)がトップ、以下「夫や子どもの弁当を作る」(54.3%)、「食事中の会話が多い」(45.0%)が続いています。

1. これまで料理や食についての知識を、主に誰から教わったり、何かからとり入れてきたか

やはり、「母親」(86.5%)が一番。第2位は「テレビ番組」(73.8%)

図 26. 料理や食についての知識を、主に誰から教わったり、何かからとり入れてきたか（複数回答）



これまで料理や食についての知識を、誰から教わったり、何かからとり入れてきたか聞いてみたところ、「母親」(86.5%)が最も多くなっています。やはり、家庭の味は“母から子へ”と伝承されていくのでしょうか。次いで「テレビ番組」(73.8%)、「雑誌」と「本」(各59.0%)といったメディア関連が続き、以下「友人」(49.3%)、「外食して」(32.8%)、「インターネット」(25.5%)、「新聞」(24.8%)などが続いています。

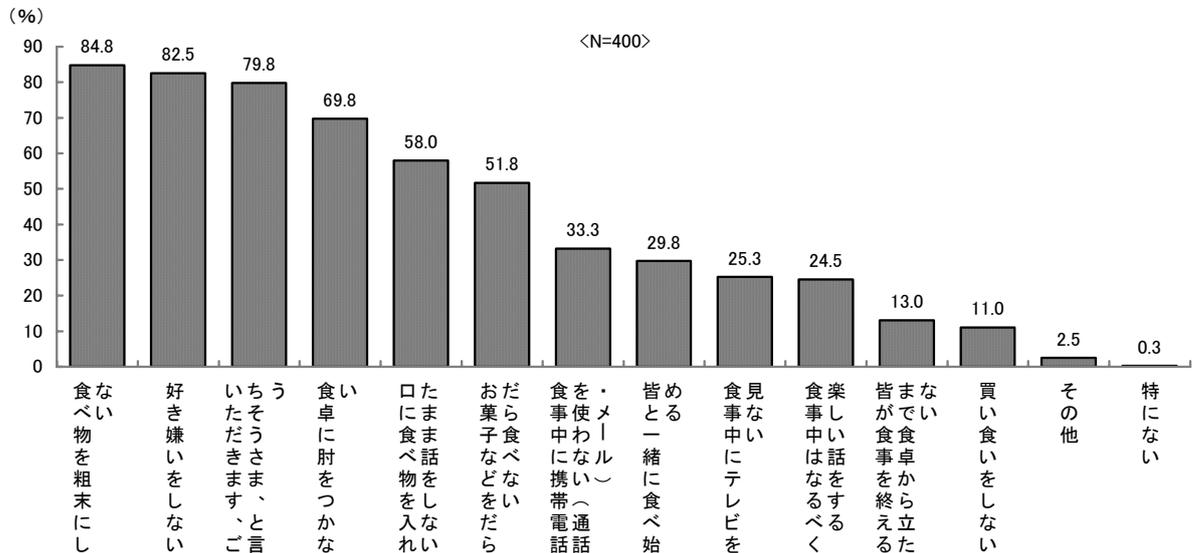
年齢別にみると、《30代》、《40代》は「母親」(順に89.5%、87.3%)がトップですが、年齢が上の人ほど「テレビ番組」の割合が高く、《50代》では84.2%と、「母親」(82.7%)をわずかに上回ってトップです。また、年齢が上の人ほど「友人」、「新聞」、「料理教室・講習会」をあげる割合が高くなっています。一方、若い人ほど「インターネット」、「祖母」、「姑」が高くなっています。

◆前回調査と比較すると、前回も今回同様、「母親」(75.0%)、「テレビ番組」(68.3%)、「雑誌」(59.5%)がトップ3でした。前回に比べて「インターネット」の割合が5.3%→25.5%と20ポイント増えているのが目立ちます。今やインターネットは主婦にとっても重要な情報源の1つになっているようです。

2. 子育てをする中で、食べ物や食事について、言い聞かせたり、守らせようとしたこと

「食べ物を粗末にしない」(84.8%)が最も多く、以下、「好き嫌いをしない」(82.5%)、「いただきます、ごちそうさま、と言う」(79.8%)、「食卓に肘をつかない」(69.8%)など、“食の有り難さ”や食事・食卓のマナーをしっかりと教えている母親が多い

図 27. 子育てをする中で、食べ物や食事について、言い聞かせたり、守らせようとしたこと（複数回答）



年代	30代 <n=133>	40代 <n=134>	50代 <n=133>	食べ物を粗末にしない	好き嫌いをしない	いただきます、ごちそうさま、と言う	食卓に肘をつかない	口に食べ物を入れたまま話をしない	お菓子などをだらだら食べない	食事中に携帯電話を使わない（通話・メール）	皆と一緒に食べ始める	食事中にテレビを見ない	楽しい話をするべく	皆が食卓から立ち去らない	買い食いをしない	その他	特になし
30代 <n=133>	87.2	85.0	80.5	68.4	56.4	52.6	15.8	30.1	29.3	24.1	9.8	6.0	3.0	-	-	-	
40代 <n=134>	85.1	77.6	79.9	77.6	61.9	52.2	51.5	29.9	26.9	29.1	9.7	11.2	2.2	-	-	-	
50代 <n=133>	82.0	85.0	78.9	63.2	55.6	50.4	32.3	29.3	19.5	20.3	19.5	15.8	2.3	0.8	-	-	

子育てをする中で、食べ物や食事について、子どもに言い聞かせたり、守らせようとしたことを聞いてみたところ、「食べ物を粗末にしない」(84.8%)が最も多く、差なく「好き嫌いをしない」(82.5%)、「いただきます、ごちそうさま、と言う」(79.8%)が続く、以下、「食卓に肘をつかない」(69.8%)、「口に食べ物を入れたまま話をしない」(58.0%)、「お菓子などをだらだら食べない」(51.8%)の順となっており、これらのことは半数以上の人が実践しています。子どもが小さい頃から“食の有り難さ”や食事・食卓のマナーをしっかりと教えている母親が多いことが分かります。なお、今の時代を反映してか「食事中にテレビを見ない」(25.3%)より「食事中に携帯電話を使わない（通話・メール）」(33.3%)の方が多くなっているのが目につきます。

年齢別にみても、いずれの年齢層でも上位にあげられている項目は全体とあまり変わりませんが、子どもの学齢も関係あるのでしょうか、若い人ほど「食べ物を粗末にしない」、「いただきます、ごちそうさま、と言う」、「お菓子などをだらだら食べない」、「皆と一緒に食べ始める」、「食事中にテレビを見ない」をあげる割合が高くなっています。また、「食事中に携帯電話を使わない（通話・メール）」は《40代》で5割強(51.5%)を示しています。

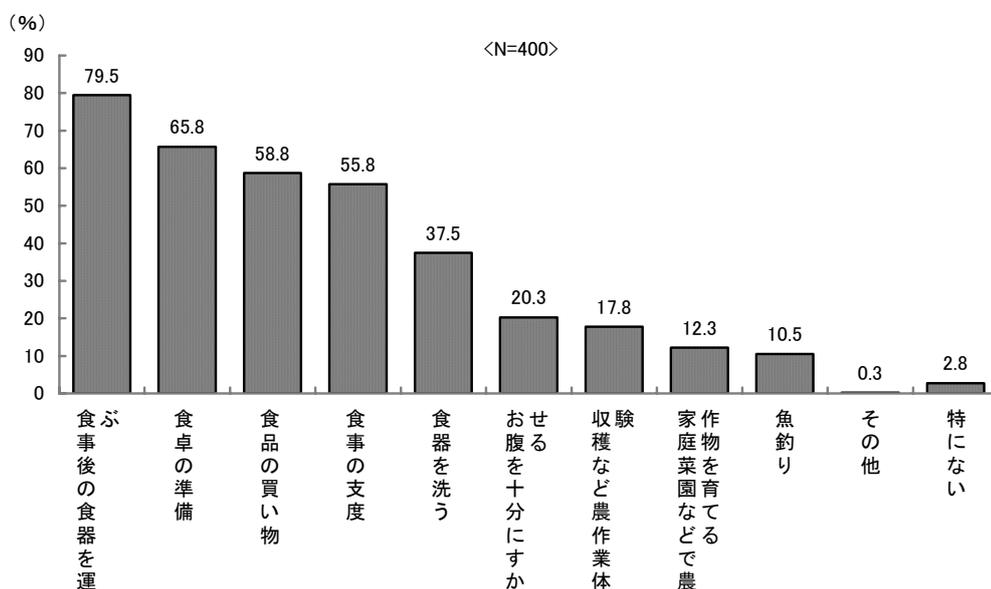
◆前回調査と比較すると、前回のトップ3は、「いただきます、ごちそうさま、と言う」(73.3%)、「食べ物を粗末にしない」(69.5%)、「好き嫌いをしない」(67.0%)となっていますが、順位の違いはありますが、上位にあげられている項目は、今回も前回と同じです。なお、前回調査では聞いていなかった、「食事中に携帯電話を使わない（通話・メール）」が33.3%と、3人に1人の割合でみられたのが注目されます。

3. 子育ての中で食べ物や食事について、参加・実行させるようにしてきたこと

半数以上が、「食事後の食器を運ぶ」(79.5%)、「食卓の準備」(65.8%)、「食品の買い物」(58.8%)、「食事の支度」(55.8%)などを子どもに参加・実行させている

- 「食事の支度」の具体的な内容は、「野菜などの皮をむく、切る」(79.4%)、「お米をとぐ」(69.1%)、「料理を作る」(64.6%)、「野菜などを洗う」(61.9%)など
- 第一子が一番はじめに作った料理は、「カレーライス」(20.8%)、「オムレツ・卵焼き」(11.8%)、「サラダ」(9.0%)がトップ3
- 「食事の支度」に第一子を参加させるようになった年齢は、「3歳以下」(19.7%)、「4～6歳」(45.7%)の“小学校入学前までに”が過半数(65.5%)

図 28. 子育ての中で食べ物や食事について、参加・実行させるようにしてきたこと（複数回答）



年代	30代 <n=133>	75.2	65.4	59.4	53.4	24.1	25.6	23.3	9.8	11.3	-	3.0
40代 <n=134>	82.8	73.1	61.9	64.9	46.3	18.7	17.9	17.2	9.7	0.7	0.7	
50代 <n=133>	80.5	58.6	54.9	48.9	42.1	16.5	12.0	9.8	10.5	-	4.5	

では、子育ての中で食べ物や食事について、子どもにはどんなことに参加・実行させてきたのでしょうか。

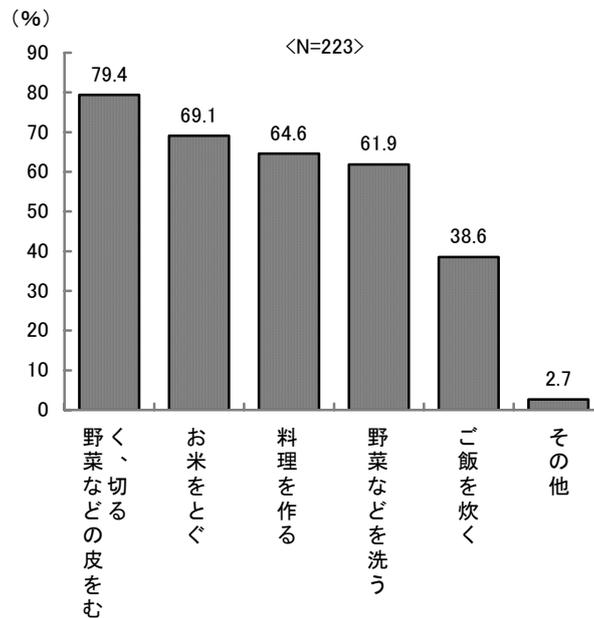
「食事後の食器を運ぶ」(79.5%)が最も多く、以下「食卓の準備」(65.8%)、「食品の買い物」(58.8%)、「食事の支度」(55.8%)が続きます。これらのことは半数以上の母親が子どもに参加・実行させています。そのほか「食器を洗う」(37.5%)、「お腹を十分にすかせる」(20.3%)、「収穫など農作業体験」(17.8%)、「家庭菜園などで農作物を育てる」(12.3%)、「魚釣り」(10.5%)があげられています。

年齢別にみると、いずれの年齢層でも「食事後の食器を運ぶ」が最も多く、上位にあげられている項目は全体と変わりません。若い人ほど「お腹を十分にすかせる」、「収穫など農作業体験」の割合が高くなっています。

なお、現在“食への感謝の気持ち”がある母親ほど、あるいは“食の安全”に関心がある母親ほど、全般的に高率を示している項目が多く、子どもに食べ物や食事について、いろいろなことに参加・実行させているという興味ある結果が出ています。

◆前回調査と比較すると、今回は「食事後の食器を運ぶ」(75.0%)、「食卓の準備」(65.8%)、「食事の支度」(52.5%)がトップ3で、順位の違いはありますが、上位にあげられている項目は今回と同じです。全般的に前回より今回の方が高率を示している項目が多く、前回より子どもにさまざまなことをさせていることがうかがえます。

図 29. “食事の支度” は、具体的にはどんなことをさせたか（第一子の場合）（複数回答）



年 代	30 代 <n=71>	84.5	60.6	53.5	66.2	19.7	7.0
	40 代 <n=87>	81.6	79.3	65.5	62.1	49.4	-
50 代 <n=65>	70.8	64.6	75.4	56.9	44.6	1.5	
第一子の性別	男 子 <n=96>	78.1	65.6	59.4	63.5	39.6	3.1
	女 子 <n=127>	80.3	71.7	68.5	60.6	37.8	2.4

“食事の支度”をさせたという人（223名）に、第一子にはどんなことをさせたのか聞いてみました。

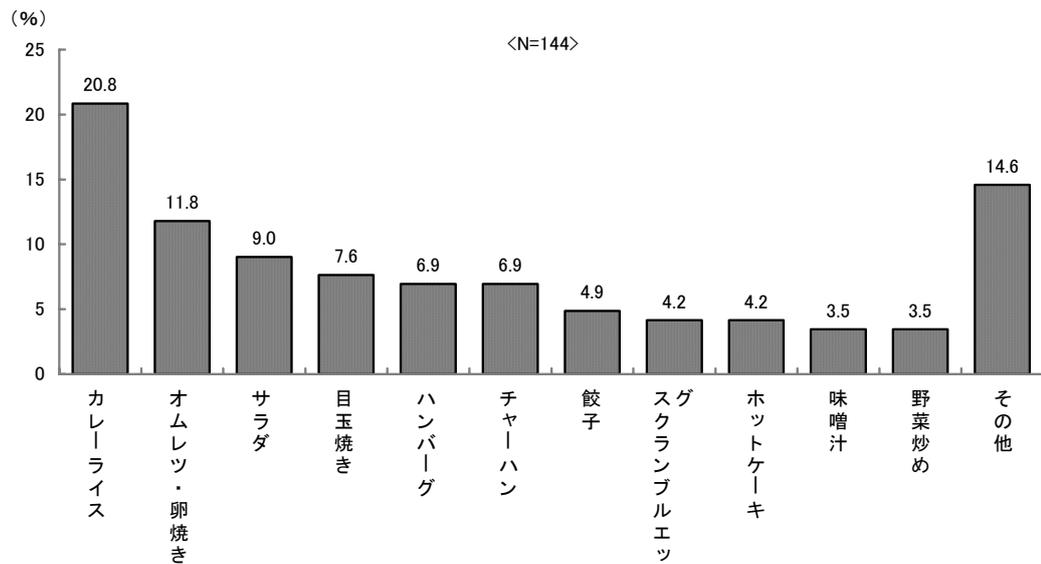
「野菜などの皮をむく、切る」（79.4%）が最も多く、以下「お米をとぐ」（69.1%）、「料理を作る」（64.6%）、「野菜などを洗う」（61.9%）、「ご飯を炊く」（38.6%）の順となっています。

年齢別にみると、子どもの学齢との関連と思われませんが、《30代》で「ご飯を炊く」（19.7%）が《40代》（49.4%）、《50代》（44.6%）に比べてかなり低くなっているのが目につきます。

第一子の性別でみると、いずれも「野菜などの皮をむく、切る」が8割前後で最も多くなっていますが、「料理を作る」割合が《女子》（68.5%）の方が《男子》（59.4%）より9ポイント高くなっています。

◆前回調査と比較すると、前回最も多かった「お米をとぐ」（74.8%→69.1%）は今回は第2位になり、前回2位の「野菜などの皮をむく、切る」（71.4%→79.4%）が今回最も多くなっています。ここでも、全般的に前回より今回の方が高率を示している項目が多く、前回に増して子どもにさまざまな“食事の支度”をさせていることがうかがえます。

図 30. 第一子が一番はじめに作った料理名



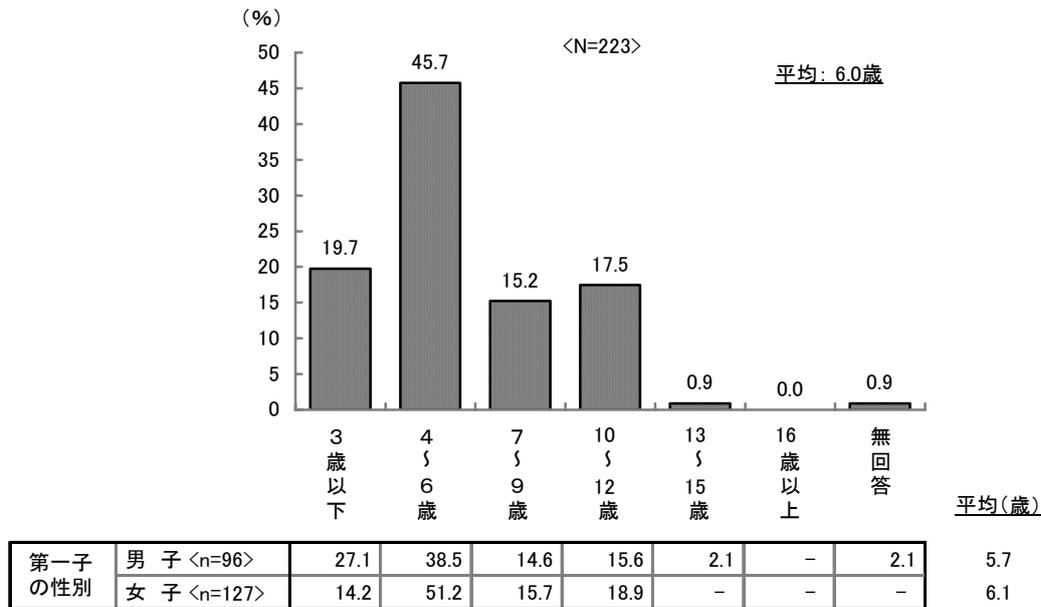
第一子の性別	男子 <n=57>	24.6	5.3	8.8	8.8	5.3	1.8	8.8	3.5	1.8	3.5	3.5	21.1
	女子 <n=87>	18.4	16.1	9.2	6.9	8.0	10.3	2.3	4.6	5.7	3.4	3.4	10.3

次に、「料理を作る」と回答した人(144名)に、第一子が一番はじめに作った料理名を具体的にあげてもらったところ、「カレーライス」(20.8%)が最も多く、以下「オムレツ・卵焼き」(11.8%)、「サラダ」(9.0%)、「目玉焼き」(7.6%)、「チャーハン」(6.9%)、「ハンバーグ」(6.9%)、「餃子」(4.9%)などが続いています。

第一子の性別でみると、《男子》では「カレーライス」(24.6%)がやや群を抜いていますが、《女子》では「カレーライス」(18.6%)、「オムレツ・卵焼き」(16.1%)、「チャーハン」(10.3%)がトップ3です。

◆前回調査と比較すると、前回は「卵料理(目玉焼き、卵焼き、炒り卵)」(42件)と「カレーライス」(35件)が多くなっていました。

図 31. 第一子を、“食事の支度”に参加させるようになった年齢



さらに、“食事の支度”をさせたという人（223名）に、第一子を、“食事の支度”に参加させるようになった年齢を聞いてみたところ、「4～6歳」（45.7%）が最も多く、次いで「3歳以下」（19.7%）となっており、“小学校入学前までに”参加させた人が65.5%と、ほぼ3人に2人の割合となっています。そのほか「10～12歳」（17.5%）、「7～9歳」（15.2%）が続き、平均は「6.0歳」です。

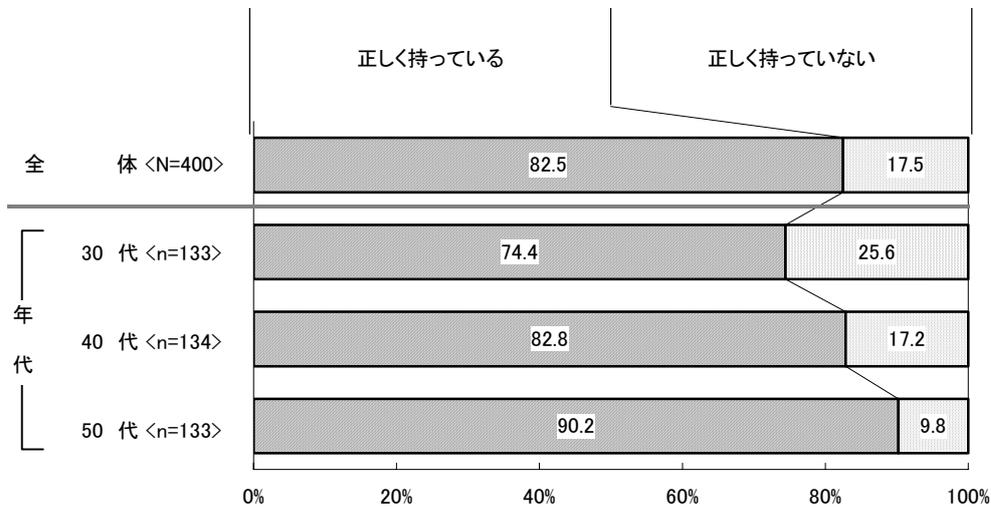
第一子の性別でみると、「3歳以下」と、早い時期から参加させた割合は《女子》（14.2%）より《男子》（27.1%）の方が10ポイント以上高くなっていますが、“小学校入学前までに”参加させた割合は《男子》が65.6%、《女子》が65.3%と同程度です。平均は、《男子》が「5.7歳」、《女子》は「6.1歳」と男子の方が早めに参加させています。

◆前回調査と比較すると、「3歳以下」、あるいは「4～6歳」など“小学校入学前までに”参加させた割合が前回（51.9%）より今回（65.5%）の方が14ポイント近く高くなっています。ちなみに、平均をみると「6.8歳」→「6.0歳」と、今回の方が早くなっています。

4. 「おはし」を正しく持っているか

「正しく持っている」という人が8割強(82.5%)を占めるが、「正しく持っていない」も2割弱(17.5%)

図 32. 「おはし」を正しく持っているか



「おはし」を正しく持っているか、正しい持ち方のイラストを提示し、自己判断してもらった結果、「正しく持っている」という人が8割強(82.5%)を占めています。しかし、「正しく持っていない」という人も2割弱(17.5%)みられます。子どもの手本となる母親ですので、本来なら全員が「正しく持っている」という結果になってもらいたいものです。

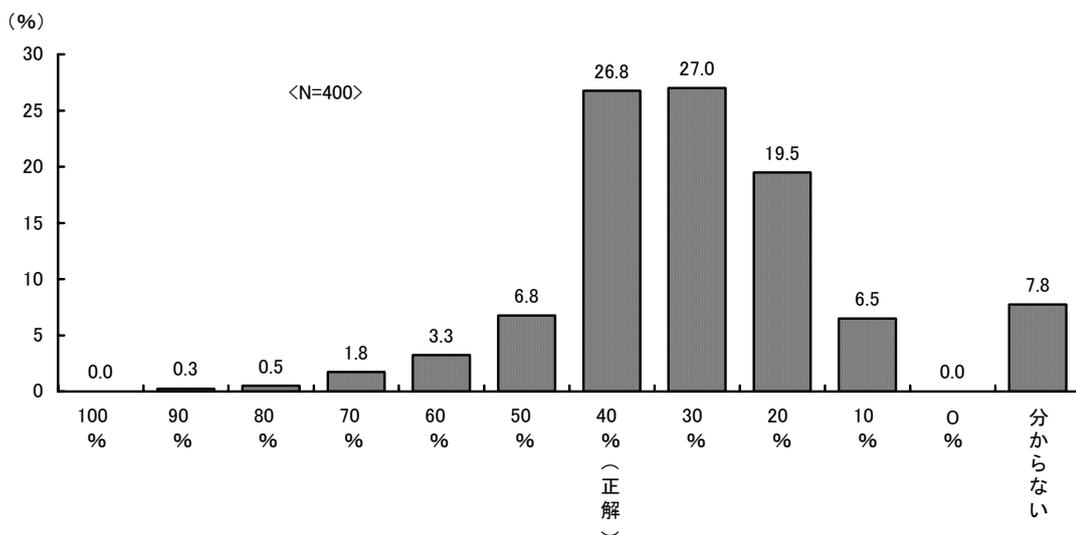
年齢別にみると、若い人ほど「正しく持っていない」という割合が高く、《30代》では25.6%と4人に1人の割合となっています。

- この質問は、前回は聞いていません。

1. 現在、日本の食糧自給率はどれくらいだと思うか

4人に1人が正解の「40%」(26.8%)

図 33. 現在、日本の食糧自給率はどれくらいだと思うか



年	30代 <n=133>	40代 <n=134>	50代 <n=133>	100%	90%	80%	70%	60%	50%	40%	30%	20%	10%	0%	分からない
30代 <n=133>	-	-	0.8	0.8	3.0	7.5	24.8	27.1	22.6	6.0	-	7.5			
40代 <n=134>	-	-	0.7	3.7	3.7	4.5	22.4	25.4	20.9	6.7	-	11.9			
50代 <n=133>	-	0.8	-	0.8	3.0	8.3	33.1	28.6	15.0	6.8	-	3.8			

農林水産省「食料需給表」によると、平成15年の世界の供給熱量自給率は「オーストラリア」(237%)が最も高く、以下「カナダ」(145%)、「アメリカ」(128%)、「フランス」(122%)の順となっており、「日本」は「40%」で、先進国では下位にランクされています。

ここでは、現在、日本の食糧自給率はどれくらいだと思うか聞いてみました。その結果、正解の「40%」(26.8%)をあげた人は4人に1人強の割合でした。半数以上の53.0%は“30%以下”の範囲、1割強(12.5%)が“50%以上”の範囲を答えています。

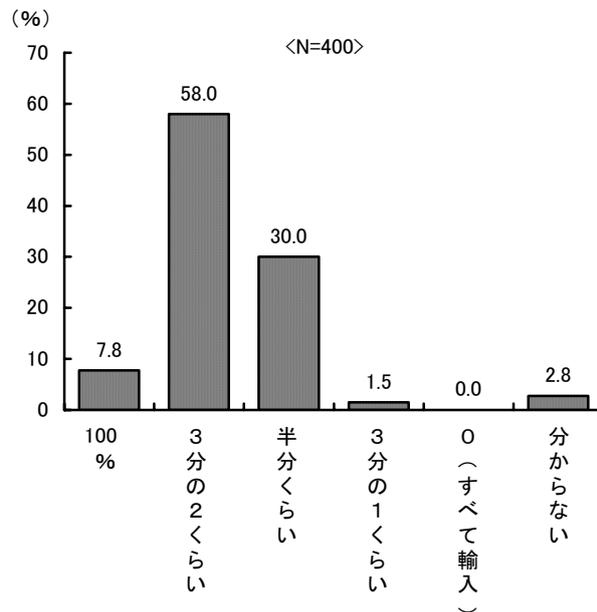
年齢別にみると、正解の「40%」の割合は《50代》(33.1%)が《30代》(24.8%)、《40代》(22.4%)に比べて高くなっています。しかし、いずれの年齢層でも5割台が“30%以下”、1割強が“50%以上”の範囲を答えています。

◆前回調査と比較すると、正解の「40%」は22.5%→26.8%と、正解率が4.3ポイントアップしています。

2. 日本は、どの程度食糧を自給すべきだと思うか

「3分の2くらい」が6割弱(58.0%)を占め、「半分くらい」(30.0%)が続く

図 34. 日本は、どの程度食糧を自給すべきだと思うか



年 代	30代 <n=133>	40代 <n=134>	50代 <n=133>
100%	8.3	8.2	6.8
3分の2くらい	53.4	64.2	56.4
半分くらい	32.3	23.9	33.8
3分の1くらい	0.8	1.5	2.3
0(すべて輸入)	-	-	-
分からない	5.3	2.2	0.8

では日本は、どの程度食糧を自給すべきだと思っているのでしょうか。

「3分の2くらい」という人が6割弱(58.0%)を占め、次いで「半分くらい」が3割(30.0%)、「100%」という人も1割弱(7.8%)みられます。中には、「3分の1くらい」(1.5%)という人も少数います。

年齢別にみると、いずれの年齢層でも「3分の2くらい」という人が過半数を占めています。

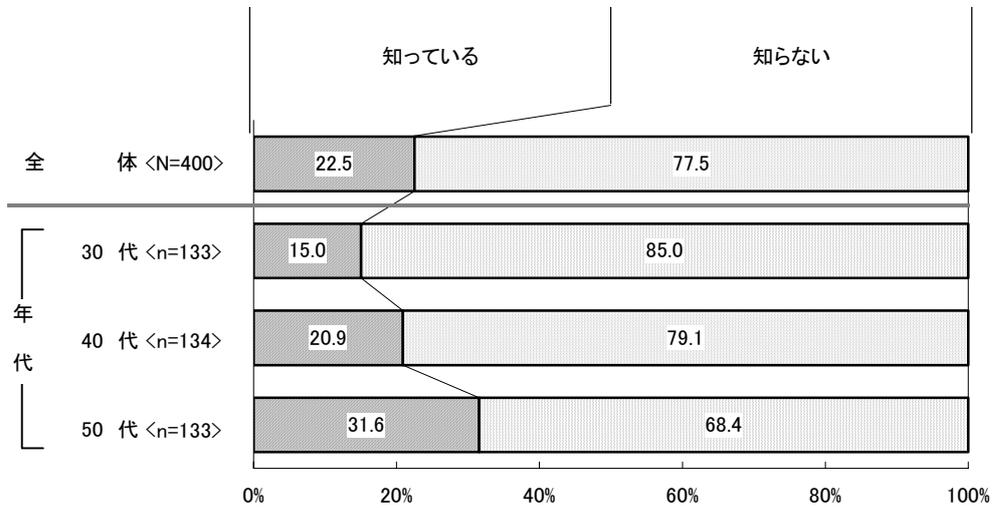
なお、前項で正解の「40%」と答えた人(107名)は、7割強が「3分の2くらい」(72.0%)、1割近くが「100%」(7.5%)と答えています。

◆前回調査と比較すると、前回も「3分の2くらい」(55.3%→58.0%)が最も多く、次いで「半分くらい」(24.8%→30.0%)が続いています。

3. 国産牛を食べても、与えている飼料が外国産の場合は自給率が上がらないことの認知

「知らない」(77.5%)という人が圧倒的に多く、「知っている」人は2割強(22.5%)

図 35. 国産牛を食べても、与えている飼料が外国産の場合は自給率が上がらないことの認知



『日本で生まれ育てた牛（国産牛）を食べても、国産牛に与えている飼料が外国産の場合は自給率が上がらない』ということを知っているか聞いてみたところ、「知っている」という人は2割強（22.5%）にとどまり、「知らない」という人が8割弱（77.5%）を占めています。

『食料自給率』は、消費する食べ物を熱量に換算し、そのうち、国内生産が供給している割合のことですが、具体的な事例になると、分からない人が多いのが現実のようです。

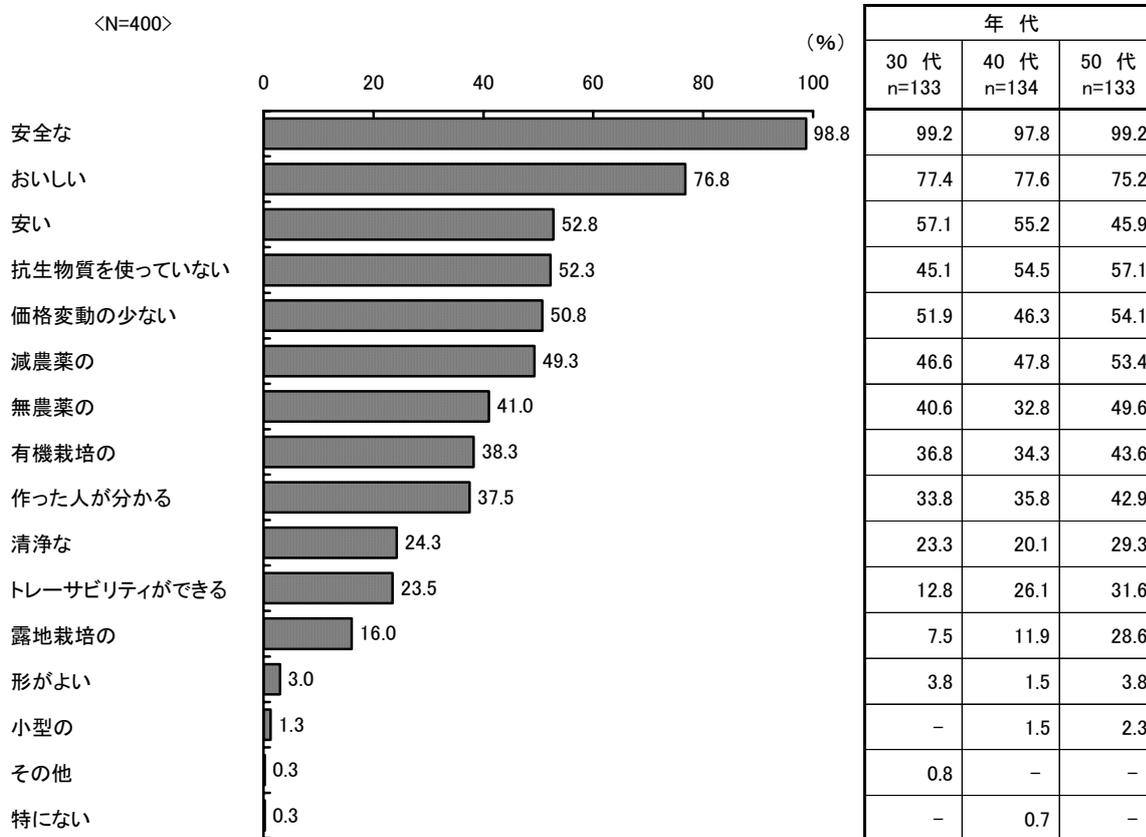
年齢別にみると、年齢が上の人ほど「知っている」割合が高くなっていますが、最も高い《50代》でも3割強（31.6%）にとどまっています。

●この質問は、前回は聞いていません。

4. これからの“農畜水産物”に対する要望

何と言っても「安全な」(98.8%)“農畜水産物”が第一。そして、「おいしい」(76.8%)、「安い」(52.8%)、「抗生物質を使っていない」(52.3%)、「価格変動の少ない」(50.8%)、「減農薬の」(49.3%)など

図 36. これからの“農畜水産物”について、どんな要望があるか（複数回答）



これからの“農畜水産物”に対する要望をみると、ほぼ全員が「安全な」(98.8%)をあげています。以下「おいしい」(76.8%)、「安い」(52.8%)、「抗生物質を使っていない」(52.3%)、「価格変動の少ない」(50.8%)を半数以上の方が要望しています。また、「減農薬の」(49.3%)、「無農薬の」(41.0%)、「有機栽培の」(38.3%)など“安全性”にかかわる要望も多くみられます。このように“食の安全”に対する要望が極めて高くなっています。

年齢別にみても、いずれの年齢層でもほぼ全員が「安全な」を要望しているなど、上位にあげられている項目は全体と変わりません。年齢が上の人ほど「抗生物質を使っていない」、「減農薬の」、「作った人が分かる」、「トレーサビリティができる」、「露地栽培の」をあげる割合が高くなっています。一方、年齢が若い人ほど「安い」の割合が高くなっています。

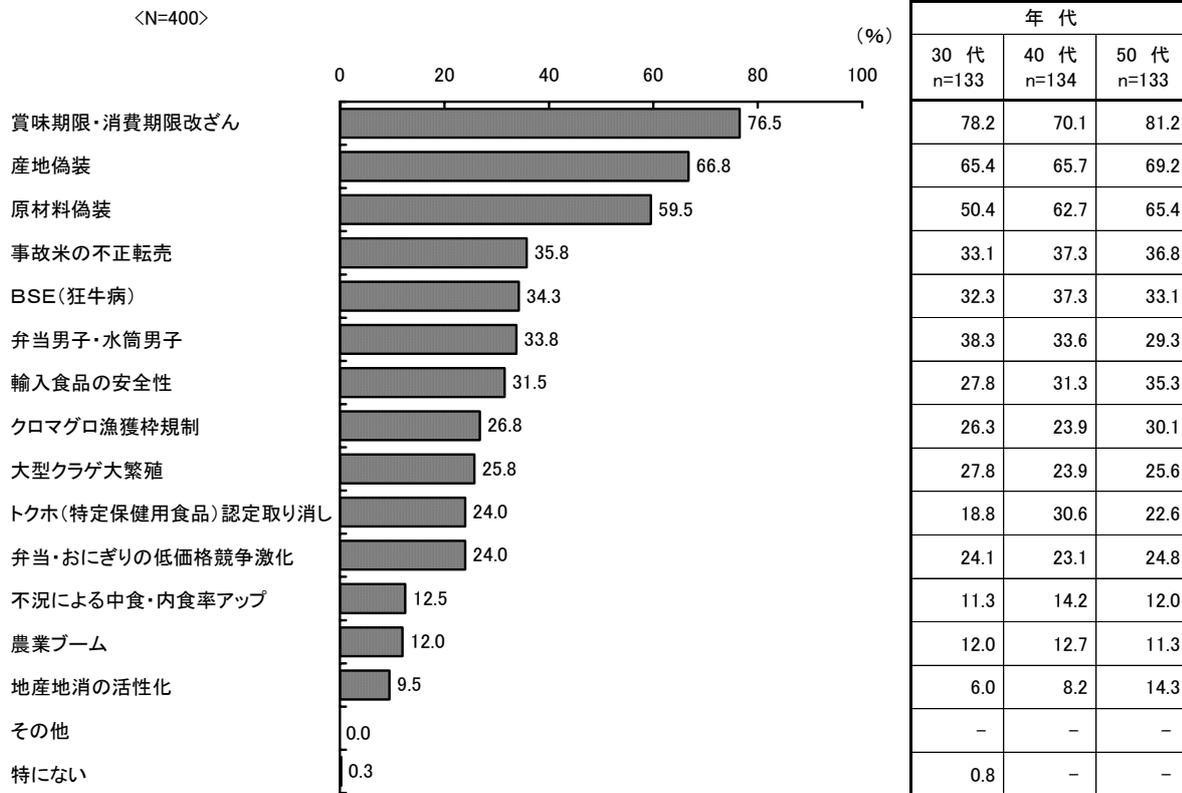
なお、“食の安全”に対する関心度が高い人ほど、「抗生物質を使っていない」、「減農薬の」、「無農薬の」、「有機栽培の」など“安全性”にかかわる要望をあげる割合が高くなっています。

◆前回調査と比較すると、前回のトップ3は「安全な」(94.0%)、「おいしい」(67.0%)、「安い」(53.0%)で、上位にあげられている項目は前回と変わりません。また、「安い」(53.0%→52.8%)、「価格変動の少ない」(49.3%→50.8%)など“価格に関する要望”は前回と同程度ですが、そのほかは前回より比率がアップしている項目が多いが目立ちます。

5. ここ1年間の“食”に関するニュースで印象に残っていること

「賞味期限・消費期限改ざん」(76.5%)、「産地偽装」(66.8%)、「原材料偽装」(59.5%)、「事故米の不正転売」(35.8%)など“食にかかわる不祥事”が上位

図 37. ここ1年間の“食”に関するニュースで印象に残っていること（回答は5つまで）



ここ1年間の“食”に関するニュースで印象に残っていることを5つまであげてもらったところ、「賞味期限・消費期限改ざん」(76.5%)が最も多く、以下「産地偽装」(66.8%)、「原材料偽装」(59.5%)、「事故米の不正転売」(35.8%)など“食にかかわる不祥事”が1位～4位を占めています。そのほか「BSE(狂牛病)」(34.3%)、「弁当男子・水筒男子」(33.8%)、「輸入食品の安全性」(31.5%)が3割台で、「クロマグロ漁獲枠規制」(26.8%)、「大型クラゲ大繁殖」(25.8%)、「トクホ(特定保健用食品)認定取り消し」(24.0%)、「弁当・おにぎりの低価格競争激化」(24.0%)が2割台で続いています。

年齢別にみても、いずれの年齢層でも「賞味期限・消費期限改ざん」、「産地偽装」、「原材料偽装」がトップ3です。年齢が上の人ほど「産地偽装」、「原材料偽装」、「輸入食品の安全性」を、若い人ほど「弁当男子・水筒男子」をあげる割合が高くなっています。

◆前回調査と今回では、ニュースが違うので比較はしません。